

- 二、旅團ニ糧食縱列當時四箇ノ獨立旅團ヲ以テ軍團トスヲ附シテ二日分ノ糧秣ヲ携行セシム
- 三、軍團糧食縱列ニハ四日分ノ糧秣ヲ積載スルノ外別ニ乾草及諸飲料等ヲ携行スル爲メ各軍團ニ二頭曳車輛約三百輛騎兵各師團ニ同二百輛ヲ附屬ス
- 四、第一線ノ追送糧食縱列 概ネ二箇軍團ト騎兵一箇師團毎ニ二頭曳車輛二千八百輛ヲ附シ六日乃至八日分ノ糧秣ヲ積載シ所屬野戰製麵包所ト共ニ軍團糧食縱列ノ後方約一日半乃至二日行程ノ所ニ在テ前進シ軍團糧食縱列ノ補充ニ任セシム
- 積載品ハ麵包、調理用粉、米、搗麥、菽類鹽、珈琲酒類、砂糖、燕麥、干草ト爲シ之ヲ類別シテ五百輛毎ニ分載ス從テ其ノ各部ノ積載量ハ倉庫品輸送ノ單位ヲ形成スルモノニシテ給養日數及作戰上ノ給養單位ニ合致セサルモノトス
- 五、第二線ノ追送糧食縱列 麵包以外ノ準備品八日乃至十日分ヲ積載シ三日乃至四日行程ヲ隔テ、第一線ノ追送糧食縱列ニ跟随シ其ノ補充ニ任ス但シ此ノ縱列ハ戰役當初ニ於テハ計畫ノミニシテ編成セラレスケーニヒスグレット

ツノ敗戰後ブリュンノ準備品ヲ後退スルノ必要ヲ生シタルトキ初メテ編成セリ

六、以上ノ外遠ク後方ニ三、四週間分ノ準備品ヲ有スル追送給養本倉庫ヲ設ケ必要ニ應シ地方車輛ヲ以テ前送ス

當時伊太利ニ於テハ未タ輜重ノ制度整ハスシテ糧秣ノ運搬ハ殆ント地方車輛ノミニ依リシヲ以テ迅速ナル攻勢ヲ取ルコト能ハス常ニ守勢ニ陥リシト云フ

千八百七十年役ニ於ケル普國給養輜重ノ狀況ハ左ノ如シ

- 一、軍隊糧食車ニ二日分ノ糧秣ヲ有ス但シ一部ハ規定ノ車輛ヲ備ヘスシテ地方車輛ニ依リ甲宿營地ヨリ乙宿營地ニ携行セシメシモ不便少ナカラサリシヲ以テ後鹵獲車輛等ニ依リ編成セシモノアリ
- 二、軍團糧食縱列 戰役前新ニ各軍團ニ五縱列編成シ(一縱列ハ四馬曳車輛三十トス)全軍團ノ爲メ麵包、乾麵包各二日分ト四日分ノ野菜、珈琲鹽ヲ積載ス
- 三、軍團車廠縱列 六縱列ニシテ(一縱列ハ二馬曳車輛八十トス)動員後始メテ編成シ全軍團ノ馬匹ノ爲メ約六日分ノ燕麥ト干草ヲ積載ス
- 四、兵站車廠縱列 當該兵站ニ屬スル軍團數ニ對シ一軍團ニ地方車輛六百輛ノ

割合ヲ以テ兵站主地ニ於テ編成シ兵站主地ヨリ作戰地區間ニ至ル軍團所屬糧秣ノ運搬ニ任セシメ其ノ輸送區域大ナルニ至レハ努メテ速ニ輕便鐵道ヲ前方ニ延伸スルモノトス

給養輜重ノ狀況以上ノ如クニシテ平時ノ準備ヲ缺キシヲ以テ糧食縱列及車廠縱列ノ大部ハメツツ攻圍ノ際ニ至リ始メテ追及シ此ノ間給養ニ大ナル困難ヲ生シタリシノミナラス軍隊ノ糧秣輸送力モ亦不足ナリシヲ以テ九月十二日ニ至リ屠肉運搬等ノ爲メ各歩兵大隊ニ二輛騎兵中隊ニ一輛ノ徵發車ヲ付スルニ至レリ

千八百七十七年ノ役ニ於ケル露軍ノ給養輜重ハ左ノ如シ

- 一、軍隊 各大隊ニ二頭曳蓋附車二輛及三頭曳糧食車二輛各聯隊ニ肉輸送車二輛ヲ附シ蓋附車ニハ乾麵包半定量、野菜及鹽各一定量、燕麥ハ半定量ヲ積載シ糧食車ニハ一日分ノ糧秣ヲ積載ス
- 二、師團(當時作戰上ノ單位トス)屠獸ヲ合シ四日分ノ糧秣ヲ有シ糧食縱列屠獸縱例ノ二個ニ區分ス
- 三、野戰給養倉庫 兵員五萬人馬匹一萬頭ニ對スル六日分ノ糧秣(干草ヲ除ク)ヲ

千八百七十七年ノ露軍輜重

輸送地方車輛二千百輛ヲ徵集シ各四個ノ軍團ヨリ成ル三個ノ縱列ヲ編成ス四、山地戰ニ關スル爲メニハ四乃至六大隊ヲ以テ山戰旅團ヲ編成シ其裝備ヲ左ノ如ク定規制限、混合戰裝備ノ三種ニ區分ス

定規山戰裝備ハ駄獸ニアラサレハ輸送不可能ナルモノニシテ旅團輜重ヲ有セス歩兵大隊ニ糧秣輸送用トシテ駄馬四十八乃至五十頭、歩兵聯隊ニ駄獸總數二百二十五頭ヲ配當ス

制限山戰裝備ハ前項ト概ネ同一ナルモ駄馬ノ總數ヲ六十二頭減少ス

混合山戰裝備ハ一定ノ地點車輛ヲ通スル場合ニ用ユルモノニシテ車輛輜重ヲ編成シ坂路輸送ニ任スヘキモノニ對シテノミ相當ノ駄馬ヲ配當ス

日露戰役ニ於ケル露軍ノ給養輜重ハ軍隊輜重、師團輜重、糧食輸送隊ニ區分セリ(第十一編第六章參照)

給養輜重ノ沿革ハ以上述フルカ如クニシテ軍ノ運動ヲ拘束スルコト大ナルヲ以テ各國共爲シ得ル限り之ヲ減少スルヲ努ムト雖モ近時大軍ヲ野戰ニ使用シ其ノ運動ノ迅速ヲ期スル爲ニハ昔時ノ如ク現地物資ニ依ルノ給養若クハ固定的ナル倉庫給養ヲ用ユルコト能ハサルニ至リシヲ以テ輜重ノ増加ヲ必要トスルノ傾向

輜重ノ増加ノ

ヲ有シ獨國ハ兵員一千人ニ對スル輻重車輛ノ比千八百十三年ニハ十三輛ナリシ
モ千八百七十年ニハ三十九輛ニ増加シ千九百年以後更ニ左ノ如ク著シク擴張シ
現今ハ五十六輛ノ多キニ達セリト云フ

一、各軍團ノ輻重兵大隊二箇中隊編成ヲ三箇中隊トシ次テ四箇中隊編成ニ改メ
其ノ中隊ノ定員ヲモ増加ス

二千九百十四年ノ豫算ニ於テハ同年十月ヨリ若干大隊ヲ五箇中隊編成トシ近
衛軍團輻重兵大隊ノ如キハ之ヲ三箇中隊ノ二箇大隊編成ト爲シ一般ニ中隊
ノ定員ヲ増加スル如ク計畫セリ

第二節 輸送材料ノ撰定

如何ナル輸送材料ヲ以テ給養輻重ヲ編成スルヲ可トスルヤハ戰場ニ於ケル狀況
ト之ヲ配屬スヘキ部隊ノ關係ニ係リ異ナルモノトス即チ戰線ニ接近シテ軍隊ニ
糧秣ヲ交付スヘキモノニ在リテハ其ノ組織ヲ堅固ニシ時機ニ應シ如何ナル困難
ノ地形ニ於テモ敏活ニ軍隊ニ跟随シ得ル如ク輕車輛ヲ以テ編成セサルヘカラス
之ニ反シ大街道ニ依リ追送補給ニ任スル輻重ニ在テハ積載力ヲ大ナラシムルト
行軍長徑ヲ減スル爲メ重大ナル車輛ヲ選定スルヲ有利トスルカ如シ

輸送材料ノ
撰定

地方慣用ノ車馬ヲ使用スルヲ最モ便トスルカ如シ(井出)

故ニ各國ニ於テモ山戰ニ在テハ馱馬ヲ以テ給養輻重ヲ編成シ其ノ他ノ場合ニ在
テハ軍隊輻重ハ一馬曳若クハ二馬曳(獨國糧食車ハ二馬曳ニシテ馬糧車ハ四馬曳
トス)トシ糧食縱列ハ二馬曳又ハ四馬曳トシ騎兵隊ノ輻重ハ步兵ニ比シ輕車輛ヲ
選フカ又ハ積載量ヲ減スルヲ多シトス

日露戰役ニ於テ露軍ハ鴨綠江方面ニ作戰スル兵團ノ爲ニハ主トシテ馱馬輸送
隊及二輪車輸送隊ヲ使用シ戰後歐露軍隊ニ在リテモ山地ニ於テ充分ノ運動力
ヲ具備セシムルコトヲ願慮シ聯隊輻重中二頭曳車ノ代リニ二輪車十五輛ヲ加
ヘ師團輻重ノ三頭曳車ヲ二頭曳車ニ改正スル等ノ處置ヲ爲セリト云フ

現歐洲戰役ニ於テ輻重ニ馱馬及駱駝ヲ使用セシ概況ハ左ノ如シ
獨國 現歐洲戰役開始前ニハ西部地方ニ在ル若干ノ步兵隊及獵兵隊ニ於テ彈
藥及機關銃ノ運搬ニ馱獸ヲ使用セシニ過キサリシモ東方戰場及巴爾幹地方
ニ出動スルニ當リ大ニ馱馬編成ノ必要ヲ感シ急速馱獸ノ準備ヲ整ヘ波蘭ニ
作戰スル軍隊ハ千九百十五年一月ニ至リ輻重ノ大部ヲ馱馬編制ニ改正セシ
ト云フ

現戰役ノ狀

土國 埃及遠征軍ハ沙漠ノ行軍ニ適スル如ク各步兵聯隊ニ駱駝約二百五十頭ヲ付シ且駱駝五百頭ヨリ成ル豫備輜重ヲ不定ノ距離ヲ以テ戰鬪部隊ノ輜重ニ跟隨セシメタリ此ノ駱駝隊ハ特ニ大ナル行軍力ヲ要求セラレ三日間ニ九十哩ヲ行軍セシコトアリシト云フ

第一 馱馬編成ト車輛編成トノ利害

給養輜重ヲ馱馬車輛ノ内孰レヲ以テ編成スヘキヤニ就テハ戰場ノ狀況之ヲ許ス限リハ車輛ヲ用ユルヲ可トス何トナレハ馬匹ノ輓曳量ハ負擔量ノ約三倍ニ相當スルヲ以テ車輛編成ハ馱馬編成ニ比スレハ之ニ要スル馬匹ト行軍長徑ヲ減少シ其ノ指揮監視ヲ容易ニスルノミナラス糧秣ノ包裝ヲ單簡ニシ積載卸下ノ爲ニ要スル時間ト煩雜トヲ輕減シ停止間ニ在テハ人馬ニ休憩ヲ與ヘ土地平坦ニシテ土質善良ナルトキハ大ニ行進速度ヲ増加スルコトヲ得ル等ノ利益ヲ有スレハナリ

地方車輛ノ存在セサル所ハ地形力之レヲ許ササルヲ普通トス(井出)

馱馬編成ハ車輛編成ニ比シ前項ニ反スルノ不利アリト雖モ地形及天候ノ影響ニ依リ其ノ運動ヲ阻害セラル、コト少ナキノミナラス車輛ニ比スレハ其ノ材料ノ破損少ナキヲ以テ地形ト狀況トニ依リ車輛ノ使用困難ナルカ若クハ車輛ノ破損

大ナル場合ニ在テハ馱馬編成トナスヲ有利トスルコトアルヘシ故ニ必要ニ際シテハ輓馬ヲ馱馬トシテ使用シ得ル如ク豫メ準備スルヲ緊要トス

日露戰役ニ於テ雨季ノ際ニハ道路泥濘ナリシ爲メ糧食縱列ヲ馱馬編成トシテ使用シタルコト少ナカラス

車輛編成ノ利ハ前陳ノ如シト雖モ行進中傾斜地ニ遭遇セハ輓曳力ヲ減シ行進ヲ遲緩スルノミナラス道路不良ナルトキハ其ノ運動ヲ停止スルノ已ムヲ得サルニ至ルヲ免カレサルコトアリ故ニ車輛編成ニ於テ大ニ顧慮スヘキハ道路ノ性能ト

(第五編第二章第十節第一參照車輛構造ノ如何ニアリトス
千八百十二年那翁ハ輜重ノ數ヲ減スル爲メ糧食一千定量ヲ積載スル舊式ノ車輛ニ代ユルニ約四倍ノ積載力ヲ有スル車輛ヲ新調セシモポーレン及露國ノ道路ニ適セス直ニ地方車輛ヲ以テ交換セサルヲ得サルニ至レリ

第一 一馬曳車輛ト二馬曳車輛トノ利害

給養輜重ヲ一馬曳車輛ト爲スマニ馬曳若クハ四馬曳車輛ト爲スヘキヤハ軍事上ノ目的、馬匹輓曳力並ニ戰場ノ狀況ニ依リ決定セサルヘカラス

軍事上ノ目的ヨリハ成ルヘク輜重ノ運動ヲ輕捷ニシ行軍長徑ヲ減少スルヲ要ス

然レトモ此ノ兩要求ハ相反對シ輻重ノ運動ヲ容易ナラシムル爲ニハ輕車輛ヲ用
 ヒ一馬曳ト爲スヲ可トス殊ニ步兵部隊ニ附屬スル給養輻重ノ如キ側方ノ村落ニ
 進入スヘキ必要アルモノニ於テ然リトス之ニ反シ行軍長徑ヲ減スル爲メニハ積
 載量ノ大ナル重車輛ヲ用ヒ二馬曳若クハ四馬曳等ト爲スヲ可トス
 馬匹輻曳力ハ概ネ其ノ負擔量ノ三倍即チ體重ト同一ノ重量ヲ輻曳スト稱スルモ
 馬ノ輻曳力ハ馬匹ノ頭數ニ比例シテ増加スルモノニ非ラスシテ合成輻力ノ比ハ
 左ノ如シト云フ

馬匹輻曳力

合成輻力

馬匹ノ頭數	一	二	四	六	八
一頭ノ出ス輻力	一〇	九	八	七	六
合成輻力	一〇	一八	三二	四二	四八
(他ノ一説ニ)	一〇〇	一九五	三二〇	四〇二	三九二

之ニ依テ見レハ合成輻力ハ其範圍ヲ超過セハ著シク遞減スルモノトス
 前項ノ輻曳力ハ車輛ノ自重ト積載品トノ總量ナルヲ以テ實際ニ於ケル積載品ノ
 輻曳力ハ其ノ自重ヲ控除セサルヘカラス各國ニ於ケル車輛自重ト積載量ニ於ケ
 ル關係ノ一例ヲ示セハ左ノ如シ

車重ト積載
量トノ關係

國	積載量	自重	自重率ト積載量ノ比
埃國	一馬曳 約六〇乃至六七	同上	一
	二馬曳 一三五	七五乃至八二	一八乃至一六
	四馬曳 二一〇	一一五	一、八
露國	一馬曳 五〇	八三	〇、六
	二馬曳 一一二	一二六	一、〇
	四馬曳 二二三	二六九	〇、八
獨國	二馬曳糧食車 二〇〇	一〇六	一、九
同	馬糧車 二四〇	一〇六	二、二
	四馬曳 二六七	二一五	一、二

二馬曳車輛
ノ利益

以上埃國ノ例ニ依テ見レハ二馬曳車輛ノ自重ハ一馬曳車輛二箇ノ自重ニ比スレ
 ハ約五分ノ一ヲ輕減シ二馬ニ於ケル合成輻力ハ其ノ十分ノ一ヲ減スルニ過キス
 シテ一馬曳ト二馬曳トニ於ケル積載量ノ比ハ約同一トス故ニ軍事上ノ目的ヨリ
 スルモ積載力ヨリスルモ二馬曳車輛ハ一馬曳車輛ニ優ルモノトス然レトモ四馬
 曳車輛ニ在テハ自重比較的増大シ其ノ合成輻力ニ於テモ五分ノ一ヲ減少スルヲ

以テ積載量ニ於ケル利益ヲ有セス單ニ行軍長徑ヲ減シ指揮ヲ容易ナラシムル點ニ於テ優ルモノ、如シ

制式混用ノ利

故ニ戰場ノ地形之レヲ許セハ二馬曳車輛トスルカ若クハ其ノ行進ヲ大街道ニ制限セラル、野砲聯隊等ノ輜重ニ限リ二馬曳車輛ヲ用ユルヲ有利トスルカ如シ軍ニ於ケル輜重車輛ノ制式ヲ區々タラシムルコトハ輜重ノ運動ヲ容易ナラシムルノ願慮ヨリハ必要ノコトニシテ其ノ弊害ハ僅少ナリト云フ何トナレハ戰場ニ於テ某使用ノ目的ヲ有スル車輛ヲ他ニ轉用セントスルカ如キハ單ニ混雜ヲ來スノミニシテ實際ニ於テ行ハレ難キコトナレハナリ故ニ各國共輜重車輛ハ其ノ制式ヲ異ニスルヨリ生スル材料補充ノ困難ヲ顧ミス其ノ使用ノ目的ニ從ヒ種々ノ車輛ヲ使用シ若クハ積載量ヲ異ニシテ運動ヲ容易ナラシムルヲ常トス

獨國 軍隊輜重ハ糧食車ヲ二馬曳、馬糧車ヲ四馬曳トシ糧食縱列ハ二馬曳若クハ四馬曳ヲ用ヒ千八百九十五年式二頭曳糧食車ハ一馬ノ挽曳力約五百九十吉瓦、同馬糧車ハ六百五十吉瓦トス

佛國 軍隊輜重ハ一馬曳若クハ二馬曳(鍛工車ハ四馬曳)ニシテ糧食縱列ハ二馬曳若クハ四馬曳ヲ用ヒ千九百年式ノ莠秣車ハ三馬曳トス

露國 軍隊輜重ハ一馬曳(彈藥及藥劑用)二馬曳、四馬曳(患者運搬車)ヲ混用シ糧食縱列ハ總テ三馬曳車輛トス

第三 車輛ノ選定

車輛ノ選定

輜重トシテ使用スヘキ車輛ハ戰地ニ於ケル道路ノ構造及狀態ニ適應シ且挽曳力ヲ減殺スルコト少ナキ車輛ヲ選定セサルヘカラス

車輛ノ構造

車輛ノ構造如何ハ挽曳力ニ大ナル影響ヲ及ホシ其ノ積載量ヲ左右ス其ノ主ナルモノ左ノ如シ

車輛ノ自重 自重小ナルニ從ヒ積載力大ナルヲ以テ如何ナル場合ニ在テモ自重ハ積載量ヨリ小ナル車輛ヲ選定スルヲ可トス

車輪ノ大小 車輪ハ二箇ノ目的ヲ有ス其一ハ路面ニ於ケル磨擦ヲ車輪ノ周圍ヨリ穀及車軸ニ移シテ之ヲ輕減スルニアリ而シテ磨擦ハ車軸ト車輪ノ大サニ反比例シ車軸小ニシテ車輪大ナルニ從ヒ益々磨擦ヲ減少スルモノトス其ノ二ハ路面上ニ於テ障礙物ニ遭遇スルトキ容易ニ車輛全體ヲ高メテ之カ通過ヲ容易ナラシムルニアリ此ノ目的ヨリハ車輛ノ半徑大ナルモノハ小ナルモノニ比シテ挽曳力ヲ要スルコト少ナシトス故ニ車輪ハ道路ノ凹凸參差

甚シキトキハ大徑ヲ採用スルヲ有利トス

車軸ノ位置 前陳ノ如ク車輪ハ其ノ半徑大ナルモノヲ撰定スルヲ要スト雖モ車輪ノ半徑過大ナルトキハ車軸カ力體ノ上方ニ位置シテ輓曳力前方ニ傾斜シ其ノ力ノ一部ヲ徒ラニ路面ヲ壓セシムルニ費消スルニ至ルト障碍物ヲ超過スルトキニ於テハ輓曳力ノ少シク上方ニ向フヲ有利トスルヲ以テ輓索ノ傾斜ハ道路ニ關シテ十一度内外ナルヲ要スト云フ

輪幅ノ廣狹 輪幅大ナルトキハ車輪ノ自重ヲ増加スルノミナラス泥土ノ粘著スルコト多ク運轉困難ナルヲ以テ輓曳力増加ノ目的ヨリハ輪幅ヲ小ニスルヲ有効トス然レトモ輪幅狹少ナルトキハ經過スル路面ニ細キ軌跡ヲ印シテ道路ヲ破壊スルコト多ク且多量ノ荷重ヲ負フコト能ハサルモノトス故ニ道路ノ不良ナルト積載量ノ多キトニ從ヒ輪幅ハ益々廣キヲ可トス

車輪ノ數 二輪車ハ輓曳容易ニシテ轉回ニ廣キ場所ヲ要セス其ノ積載量モ亦大ナリト雖モ路面不正ナルトキハ轉覆シ易ク登坂ニハ輓獸ノ運脚ヲ不確實ナラシメ降坂ニハ之ヲ壓迫スルノ害アルノミナラス完全ナル制轉器ヲ裝置スルコトヲ得ス且積載品ノ重量ヲ唯二箇ノ車輪ニ依リ支持スルヲ以テ四輪

車ニ比シ道路ヲ破壊スルコト大ナリトス故ニ平坦地ニ在テハ二輪車ヲ利トスルモ山地ニ在テハ四輪車ヲ採用スルヲ有利トス

日露戰役ニ於テ露軍成規ノ四輪車ハ道路不良ノ爲メ使用スルコト能ハザリシヲ以テ之ヲ後方ニ止メ單ニ二輪車ヲ用ヒタリト云フ

第四 官有車輛ト地方車輛トノ利害

輻重ノ車輛ヲ官有トシ平素準備シ置クヘキヤ又ハ時機ニ應シ地方車輛ヲ徵用スヘキヤハ種々ノ狀況ニヨリ異ナリト雖モ輻重ノ運動力及積載力ヲ増加スル爲ニハ其ノ構造輕便ニシテ堅牢ナル制式ヲ一定シ平素ヨリ準備シ置クヲ可トス然レトモ全輻重ニ要スル車輛ヲ平時ヨリ準備シ置クコトハ其ノ經費莫大トナリ財政上望ムヘカラサルコトトス之ニ加フルニ一定ノ官有車輛ヲ準備シ之ヲ孰レノ戰場ニ於テモ適應セシメントスルトキハ輓曳力等ニ於テ不利ヲ生スルヲ以テ某戰場ノ狀況ヲ豫定シテ構造セサルヘカラス故ニ戰場豫定ト異ナル場合ニハ一定ノ官有車輛ヲ捨テ地方車輛ニ依ルヲ有利トスルコトヲ生スヘシ何トナレハ地方慣用ノ車輛ハ其構造自ラ其ノ地勢ニ適スルヲ以テナリ

豫想作戰地ト本國ト地形ヲ全ク異ニスル場合ニ於テハ寧ろ全然地方車輛ニ依ルヲ適當トセン (井出)

北清事件ニ於テ各國ハ其ノ携行シタル一定ノ官有車輛ヲ捨テ支那車輛ヲ利用セシモノ多カリシト云フ

故ニ各國中軍隊ノ所在地ニ至リテ糧秣ヲ分配スル給養輜重ハ其ノ地方ノ狀況ニ適スル地方車輛ヲ以テ編成スルヲ有利ト爲シ軍隊輜重ニ於テモ尙地方車輛ヲ補助トシテ使用シ良好ナル街道ノ輸送ニ任スルモノハ一定ノ官有車輛ヲ使用シ得ルトノ理由ヲ以テ却テ兵站輜重ニ官有車輛ヲ使用スルヲ原則ト爲スモノアリ

官有地方車輛ノ比

那翁ハ官有車輛ト地方車輛トノ標準ヲ左ノ如ク定ム

兵員四萬人ニ五百ノ輜重車輛ヲ備ヘ内二百五十輛ヲ官有車輛トシ二百五十輛ヲ地方車輛トスルヲ可トスト此ノ主旨ニ基キ佛國ノ糧食縱列ハ其ノ總數百六十四輛ノ内八十八輛ハ徵發車輛ヲ用ユルコトヲ規定シタルコトアリ

豫想作戰地ト本國ト同一狀況ノ大陸國ニ於テ初メテ此ノ如キ既チナシ得ベシ (非出)

ラージエーハ此ノ比ヲ左ノ如ク定ム

兵員三萬人ニ三百ノ輜重車輛ヲ備ヘ内百輛ヲ官有車輛トシテ二百輛ヲ地方車輛トスルヲ可トス

要スルニ官有車輛ト地方車輛トノ比ハ其ノ國ノ財政、戰場ノ狀況及軍事上ノ目的

車輛ノ應用

等ニヨリテ決定セサルヘカラスト雖モ現今ノ如キ大軍ヲ運用スル場合ニ際シテ其ノ所要運搬具ヲ適當ノ時機ニ戰場附近ニ於テ徵用シ得ルコトハ望外ニ屬ス假令之ヲ徵用シ得ルトスルモ一地ニ徵集スルニハ多數ノ時日ヲ要シ軍ノ運動ヲ拘束スルコト大ナルノミナラス地方車輛ハ材料不齊ニシテ統轄指揮困難ナルヲ免カレサルモノトス故ニ財政上ト軍事上トノ二要求ヲ折衷シ作戰地内ニ在リテ運動スル輜重ハ軍紀完全ニ運動輕捷ナル官有車輛ヲ以テ編成シ、唯例外トシテ現地調辨品ノ徵集ニ限り地方車輛ヲ利用シ作戰地外ニ使用スル輜重ハ地方車輛ヲ以テ編成シ其ノ輸送ノ最モ確實ヲ期スル爲メ地方車輛ヲ胸算ニ置キ難キ已ヲ得サルモノニ限り豫メ準備シ置クヲ必要トス

學理上ノ理窟ニシテ實際我國ニハ適セサルニアラサルカ (非出)

獨國 軍隊給養輜重ニ於ケル炊爨車以外ノ車輛及車廠縱列ハ動員ニ際シ地方車輛ヲ徵集シテ之ニ充當シ平時準備ヲ有スルモノハ糧食縱列ノミトス
埃國 軍隊輜重ニ於ケル酒保車及糧食車ノ一部並ニ野戰麵包製造所及該縱列ノ全車輛ハ地方車輛ヲ用ユト云フ

露國 師團輜重ニモ規定以外ニ多數ノ徵發車輛アリ軍團輸送隊ハ大部分徵發

車輛ニシテ軍輸送隊ハ悉ク徵發車輛ヲ用ユルモノトス現戰役ニ於テハ聯隊輜重ニモ之ヲ多數ニ混入セシモ人馬車輛ヲ共ニ徵發セシト現地ノ行動ニ熟スルモノナリシヲ以テ其ノ活動ハ寧ロ正規輜重ヨリ優リシカ如シト云フ以上ノ如ク各國中軍隊輜重ニモ地方車輛ヲ混用スルモノアリト雖モ現今若シ軍隊輜重ノ車輛ヲ悉ク平時ヨリ準備スルコト能ハサルモノトセハ寧ロ糧食縱列用ノ官有車輛ヲ之ニ充當シ糧食縱列ヲ地方車輛ヲ以テ編成スルヲ可トスト論スルモノ少カラス此ノ理論ハ現歐洲戰役ニ於テ獨國軍隊カ其ノ輜重ノ動員完結ヲ俟ツコト能ハス開戰後直ニ白耳義ニ侵入シ著シク饑餓ヲ感シタル事實ニ依リ正當ナルコトヲ證明セシト云フ

第三節 軍隊ノ給養裝備

第一 軍隊ノ給養輜重

此ノ裝備ハ軍隊ノ給養實施ヲ確實ナラシムル爲メ糧秣及炊爨ニ必要ナル材料ヲ携行セシメ且其ノ輸送材料ヲ以テ自己所要ノ糧秣ヲ受領セシムル爲メ附屬スルモノトス故ニ其ノ編成ハ特ニ軍編成ノ狀況ニ關スルコト大ナリトス何トナレハ軍隊獨立シテ行動スルトキハ總テ豫備品ヲ自ラ運搬シ補充スルヲ要スルモ其ノ

單位擴大セラルルニ從ヒ軍隊ニ有スル豫備品ノ數ヲ減少シ其ノ必要ノ度少キモノヲ割キテ師團又ハ軍ノ輜重ニ移スヲ得ヘキニ依ル
軍隊ニ於ケル給養輜重ニ携行スル糧秣ハ各國共概ネ一、二日分ニシテ分配ヲ容易ナラシムル爲ニハ其ノ車輛ヲ各中隊ニ分割シ得ル如ク編成スルモノヲ多シトス其ノ日糧及輜重區分ノ概略ハ左ノ如シ

獨國 戰鬪行李及大行李ニ區分シ戰鬪行李中ニ二馬曳野戰炊爨車步兵中隊ニ各一輛ヲ有シ大行李步兵大隊ニハ二馬曳糧食車五輛ヲ有シ第五糧食車ハ酒保車トスニハ麵麩、罐詰肉各二日分、米、珈琲、食鹽、茶、砂糖三日分ヲ有ス但シ騎兵部隊ハ以上ノ外一日分ノ携帶口糧ヲ有ス
馬糧 騎兵及砲兵ハ一日半分、其ノ他ハ二日分トス
奧國 戰鬪輜重ト行李輜重ニ分チ戰鬪輜重ニ二馬曳野戰炊爨車ヲ有シ行李輜重ニ携帶糧秣ニ充ツル生肉及馬糧ノ追送定量各一日分ヲ有ス
佛國 戰鬪行李、大行李ニ區分シ戰鬪行李中ニ肉車、步兵聯隊ニ三輛ヲ大行李ニ二頭曳糧食車、步兵聯隊ニ三輛ヲ有シ増定量二日分、加給品一日分、馬糧二日分ヲ有ス(騎兵部隊ハ總テ一日分トス)

露國 積載品配置上ヨリハ中隊輜重、聯隊輜重ニ分ソモ統御及敵ニ接近スル順序上ヨリハ第一輜重(小行李ニ相當ス)第二輜重ニ區分シ第一輜重ニ野戰炊爨車(步兵聯隊ニ十七輛)第二輜重ニ二馬曳糧食車(步兵聯隊ニ二十三輛)ヲ有シ調理用食鹽五日分其ノ他ノ糧食(罐詰肉ヲ除ク)二日分、乾草二日分、燕麥三日分ヲ積載ス

英國 尋常糧食燃料共及加給品各一日分、嗜好品茶、珈琲、砂糖、食鹽、胡椒二日分、此糧一日分ヲ有ス但シ狀況ニ依リ部隊長之ヲ變更スルコトヲ得但シ現歐洲戰役ニ於テハ炊爨車ニ一日分ノ糧秣ヲ携行セシメ各部隊ノ大行李ハ一團ト爲シ使用セリト云フ

騎兵部隊ノ給養輜重ハ現地ノ物資ニ依リ給養シ其ノ運動ノ迅速ヲ期スル目的ヨリ一般ノ部隊ト編成ヲ異ニシ糧秣一、二日分ノ外特別ニ砂糖、珈琲、食鹽等四、五日ヲ携行セシムル國少カラス

輜重縱列自己ノ爲メニ携行スル糧秣ハ軍隊ニ比スレハ之ヲ増大シテ其ノ補充ノ困難ヲ補ヒ且給養困難ナル場合ニ於テモ糧食縱列ノ積載品ヲ使用セシメサル如ク編成スルモノヲ多シトス

騎兵ノ輜重

輜重縱列自己ノ輜重

佛國 糧食縱列ハ四日分ノ糧秣ヲ携行ス

埃國 糧食縱列ハ左ノ如ク十日分ノ糧秣ヲ携行セシム

糧食 追送定量三日分 豫備定量七日分 合計十日分

馬糧 同 七日分 同 三日分 合計十日分

但シ馬糧ノ追送定量ハ官馬ノ爲メ五吉瓦地方馬ノ爲メ三吉瓦トス

前項ニ反シ獨國ハ糧食縱列、車廠縱列、野戰病院等ニハ自己ニ必要ナル糧秣車ヲ有セス故ニ倉庫地ニ舍營シ若クハ野戰倉庫ニ於テ正午休憩ヲ爲ストキニ限り該倉庫ヨリ給養ヲ受クルコトヲ得ルモ然ラサルトキハ徵發車輛ニ依リ自己ノ給養品ヲ積載携行シテ給養スルモノトス

炊爨具及之ニ關スル材料ノ携行ニ就テハ部隊ノ狀況ニ依リ其ノ品種數量ヲ異ニセサルヘカラス例ヘハ敵ト遠隔シ且廣地域ニ宿營シ得ヘキ輜重ニ在テハ地方材料ヲ利用シ得ル場合少ナカラサルモ戰鬪部隊ニ在テハ之カ利用ヲ胸算ニ置クコト能ハサルヲ以テ多數ノ炊具ヲ携行シテ迅速ニ給養シ且各自携帶ノ飯盒ニ依リ炊爨セシムルノ疲勞ヲ減セシムルヲ必要トスルカ如シ

現今歐洲各國ハ炊爨車ヲ利用スルニ至リシト雖モ炊事鍋ハ輜重ヲ離隔セシト

炊爨材料

キ又ハ一部隊ノ獨立セシ場合等ニ於テ温食給與ノ爲メ必要ト爲シ依然携行セシムルモノ少カラス

現歐洲戰役ニ於テ獨國ハ千九百十六年五月機關銃隊ニ同七月電話隊ニ規定ノ炊爨車ノ外別ニ分隊炊具ヲ交付シ小部隊獨立炊爨ノ場合ニ便ナラシメタリト云フ

各個炊爨ノ利害得失ニ就テハ尙大ニ論究セラレシコトヲ望ム(田中)

炊爨具ヲ携行スルト各個炊爨トノ利害ヲ吾國軍ノ情況ニ照シ詳細ニ研究ヲ要ス

給水車

現歐洲戰役ニ於テハ各國共給水車ヲ附屬セシモノ少カラス佛國騎兵聯隊ニ附屬セシ給水車ハ二馬曳無蓋二輪車ニシテ飲用水ハ一人ニ付一「リットル」ノ割合ヲ以テ約七百五十「リットル」宛ヲ三箇ノ大桶ニ收容シ清水二百五十「リットル」毎ニ「ヂャベル」液二十乃至三十滴ヲ注キ水ノ腐敗ヲ防止シアリト云フ

明治三十三年ノ北清事件ニ際シテハ歐洲各國中給水囊ヲ駄載シテ小行李ニ携行セシモノ少カラサリシト云フ

各國中軍隊輻重ニ屠獸器ヲ携行セシメ生牛ヲ屠殺シテ給養ニ充テシムルモノ少ナカラス然レトモ皇國ニ於テハ之ヲ軍隊ニ携行セシムル必要ナシト信ス何トナ

屠獸器

レハ生獸ヲ軍隊ニ携行セシムルトキハ著シク行軍速度ヲ減少シ(歐洲諸國ニ於テ諸兵連合ノ縱隊一日行程二十乃至二十二吉米ヲ行進シ得ル場合ニ於テ屠獸ヲ携行スルトキハ十五乃至二十吉米ニ減少スト謂フ)且之カ保護管理困難ニシテ漸次衰弱憔悴セシメ甚シキニ至リテハ傳染病ヲ發生セシムルニ至リシコトハ各戰役ニ於テ實驗スル所ナルヲ以テ肉食ノ習慣ヲ異ニスル皇國軍隊ニ於テ此ノ如キ困難ト不利益トヲ冒シテ行進中生肉ヲ交付スルノ必要ナケレハナリ

要スルニ軍隊ノ給養裝備ハ携帶糧秣ト其ノ趣キヲ異ニシ編成大ナルニ從ヒ軍隊ノ運動ヲ妨碍スルコト益々大ナルヲ以テ爲シ得ル限リ之ヲ輕減シ單ニ軍隊ノ直接給養ヲ確實ニスルノ度ニ止メサルヘカラス此ノ目的ヲ達スル爲ニハ各部隊ノ任意ニ車輛ヲ増加スルヲ嚴禁スルヲ必要トス

陣中要務令ニ於テ野外要務令ニ示セシ大行李ノ豫備車輛(馬)ニハ各部隊ニ於ケル臨時調辨セル食物ヲ積載スルヲ得トアリシヲ改正シテ糧秣ニ過剩品ヲ生シタルトキ之ヲ積載スルコトヲ得ト爲セシモ亦此ノ主旨ニ外ナラスト信ス

千八百十二年那翁ノモスコーヨリ退却スルヤベレデナ河ノ渡過ニ當リ終日橋ノ入口ニ立テ規律ナキ逗留兵ヲ滿載シ來ル車輛ヲ止メ數百輛ノ車輛及自己ノ

車輛増加ノ禁止

旅行車ヲ燒棄セリ又千八百十五年六月十四日ニ於ケル白耳義進入ニ關スル命令ニハ正規外ノ車輛ハ悉ク之ヲ燒却スヘキコトヲ命セリ

獨國 部隊指揮官(大隊長其ノ他)及豫備師團長ハ糧食車ヲ増加スルノ權利ヲ有セス同權利ヲ有スルモノハ獨立枝隊長及騎兵師團長ニシテ一時的車輛ノ増加ハ左ノ規定ニ依ルモノトス

- 一、糧食車ノ運搬力ヲ大ナラシムル爲ニハ高級指揮官ノ命ニ依ル
- 二、遲滯セル戰鬪豫備品ヲ運搬スル爲ニハ部隊指揮官ニ於テ之ヲ行フコトヲ得ルモ自ラ責任ヲ帶ヒ且直ニ高級指揮官ニ報告スルヲ要ス

第一 野戰炊爨車

野戰炊爨車ノ効力

野戰炊爨車ハ千八百六十年モルトケ元帥カ近時ニ於ケル軍兵額ノ増加ト行動ノ迅速ナルトハ縱令經理部ニ於テ萬難ヲ排シ給養品ヲ適當ニ準備スルモ之カ炊爨調理ニ必要ナル時間ト材料トヲ得ルコト能ハサルヲ以テ之ヲ補フニ缺クヘカラサルモノタルコトヲ主張セシ以來歐洲各國ニ於テ盛ニ研究シタル結果之ヲ小行李中ニ加ヘ大行李ノ到達ヲ俟ツコトナク給養品ヲ直ニ調理シ分配スルニ至レリ從テ從來ニ於ケルカ如ク各兵ヲシテ飯盒又ハ分隊炊具(主トシテ乘馬兵ニ使用ス)

獨國炊爨車

ニ依リ炊爨セシムルノ弊害ヲ除去スルヲ得タリト云フ

各國ニ於ケル炊爨車構造ノ概要ハ左ノ如シ

獨國 前車及後車ヨリ成ル二馬曳四輪車ニシテ前車ニハ携帶口糧二百定量及一日分ノ尋常副食物、鞍馬ニ對スル携帶馬糧並ニ豫備器具、帆布製水桶、鋸、斧等等ヲ積載ス

後車ニハ大小二箇ノ釜ヲ裝置ス大釜ハ容積二百リットルニシテ食物ヲ調理シ小釜ハ七十リットルニシテ珈琲及湯茶ヲ沸スニ供シ行進中歩兵一中隊ノ需要ニ應スル如ク食物ヲ煮熟シ得ルモノト爲シ其ノ他炊爨用器具、挽肉器、珈琲挽器、燃料ヲ積載ス

前車、後車ハ道路泥濘若クハ急傾斜地等ニ在リテハ之ヲ分離シ各一馬曳ヲ以テ單獨行進ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

煮熟ニ要スル時間ハ米三十分、馬鈴薯三十分乃至四十五分、豚肉四十五分、牛肉一時間半ニシテ水ノ沸騰時間ヲ加ヘ約三時間乃至四時間ヲ要シ日々肉、野菜若クハスープ等温キ食品ヲ二回、珈琲ヲ一回乃至二回準備スルヲ得ルト云フ釜ヲ密閉スルトキハ釜内ノ食品ハ十二時間ヲ經ルモ尙攝氏六十度ノ溫度ヲ

有シ十二時間毎ニ更ニ温ムルトキハ七十二時間ハ食用ニ供スルコトヲ得
 奥國 獨國ト殆ント同一ナル前車及後車ヨリ成ル二馬曳ニシテ前車ハ糧食歩
 兵隊ハ麵包耐久珈琲及煙草以外ノ完全定量一日分及茶一吉瓦、砂糖十吉瓦ト
 ス、及調理ニ要スル器具等ヲ積載シ肉切板等ヲ固定ス、後車ハ竈、兵卒用釜、將校
 用釜及二箇ノ水桶並ニ起重機ヨリ成リ食物調理用ノ桶等ヲ備フルモノトス
 竈匣ノ底部ニハ左方ニ大ナル火室、右方ニ燃料匣ヲ備ヘ燃料匣ハ已ムヲ得サ
 ル場合ニハ火室トシテ使用スルコトヲ得ルモノトス
 兵卒用釜ハ約九十二リットルノ内容ヲ有スル三箇、將校用ハ二十リットルノ
 釜一箇トシ蒸燒鍋及燒鍋ニ代用シ得ル器具ヲ有シ且釜約百十吉瓦ノ重量ヲ
 有スノ取リ外シヲ容易ナラシムル爲メ起重機ヲ設クルモノトス
 肉及野菜ノ煮熟ニ要スル時間ハ左ノ如シ
 一、肉及莢豆ハ點火ノ時ヨリ二時間半乃至三時間
 二、豚肉ハ沸騰水ニ入レタル時ヨリ一時間乃至一時間半米ハ同上ヨリ三十
 分間、馬鈴薯及扁豆ハ同上ヨリ三十分間乃至四十五分間トス
 第一、第二ノ釜ハ肉及肉汁ヲ第三ノ釜ハ野菜ヲ煮熟スルニ用ヒ第一ノ釜ハ火

上ニ第二ノ釜ハ煙突ニ近ク第三ノ野菜釜ハ火外ニ置キ第一ノ釜カ三十分ヲ
 經過シ僅ニ蒸氣ヲ發生シタルトキ第二ノ釜ト交換ス、野菜釜ハ直接火上ニ置
 カサルモ其ノ水量少キヲ以テ他ノ二個ノ釜ト同時ニ沸騰スルモノトス(約一
 時間)釜沸騰セハ僅ニ火ヲ殘シ更ニ一時間ノ後全ク火ヲ去リ餘熱ヲ以テ猶三
 十分間煮ルモノトス
 宿營地ヨリ携行スヘキモノハ食料品、燃料及用水ニシテ(多量ノ水ヲ携行シタ
 ルトキハ休憩中湯茶ヲ給與スルコトヲ得)調理ハ肉切板上並ニ前車板上ニ於
 テ行ヒ分配ノ爲ニハ釜ヲ併列シテ行フヲ例トス
 露國 日露戰役ニ携行セシ二馬曳炊爨車ハ道路不良ノ爲メ使用スルコトヲ得
 サリシヲ以テ一馬曳二輪ノ輕車ニ改良シ喫茶、コップ、皿等ヲ入ルル棚ヲ付シ
 温食ヲ第一線ニ至ルマテ供給スルコトヲ得テ其ノ成績良好ナリシヲ以テ現
 歐洲戰役ニ於テモ主トシテ一馬曳ヲ用ヒ(二馬曳ニシテ前車、後車ニ區別シ得
 ルモノモ併用ス)朝夕各一回温食ヲ給スルノミナラス行軍間ノ休憩ニハ何時
 ニテモ茶ノ補足ヲ爲シ得ル如ク爲セリ、一日分ノ尋常副食物ヲ積載シ其ノ炊
 爨ニ要スル時間ハ四乃至五時間ナリト云フ

佛國炊爨車

英國炊爨車

佛國 現戰役開始前ニ於テハ各炊爨車ノ制式ニ就キ利害研究中ニシテ未タ一定セザリシモ千九百十五年未迄ニハ悉皆之ヲ軍隊ニ交付シ了レリト云フ

英國 二馬曳炊爨車ニシテ前日夕受領セシ給養人員ニ對スル一日分ノ尋常糧食ヲ積載シ約五百名ニ對スル副食物ヲ約一時間半ニ於テ調理シ得ルト云フ

炊爨車ノ構造ハ炊爨部ヲ縱方向ニ區分スルトキハ左ノ如ク三室トナルモノトス

- 一、中央室 上下ノ二部ヨリ成リ上部ニハ前方ニ焙器後方ニ湯釜(二十六ガロン)即チ約九斗ノ水ヲ收容スルヲ得ヲ設ケ下部ヲ火室トス
- 二、左右兩側室 左右兩側室ハ全ク同一ノ構造ニシテ中央室ノ兩側ニ相對シテ配置シ上部ニ竈一箇、蒸釜三箇ヲ備ヘ下部ニ燃料室ヲ設ケ(兩燃料室ニハ三回ノ炊爨ニ充分ナル石炭又ハ薪材ヲ收容スルコトヲ得)
- 蒸釜一箇ハ約五十人分、竈一箇ハ百人分ノ副食物ヲ一時ニ調理スルコトヲ得但シ各室ハ獨立シテ熱氣ヲ通シ他ニ關係ナク使用スルコトヲ得

第三 野戰炊爨自動車及湯沸自動車

炊爨自動車

繫駕ニ依ル野戰炊爨車ハ比較的速力僅少ナルヲ以テ適當ノ時期ニ到達セシムル

炊爨自動車ノ構造

炊爨自動車ノ利益

爲ニハ常ニ所屬軍隊ニ跟隨セシムルヲ要スルヲ以テ往々敵ノ大膽ナル小部隊ノ爲メ炊爨車ヲ奪取セラレ又ハ破壊ヲ蒙リシコト少ナカラス故ニ此ノ如キ弊害ヲ除ク目的ヲ以テ野戰炊爨自動車ヲ發明セリ該自動車構造ノ概略ハ左ノ如シ

- 一、約三十馬力ヲ有スル輕自動車ニ於ケル車臺ノ後方ニ大小二個ノ炊事釜ヲ裝置シ蒸氣ヲ以テ副食物ノ煮熟ヲ迅速輕便ニ實施シ得ルモノニシテ一時間ノ速力約四十五吉米トス
 - 二、炊爨大釜ハ二重釜ト爲シ其ノ中間ニ「グリセリン」ヲ填實シ食物ノ焦ケ付キヲ防キ且消火後ニ於テモ長ク温度ヲ保存セシム
 - 三、大釜ハ全中隊ニ對スル汁、肉及野菜ヲ小ナル釜ハ珈琲、茶等ヲ煮ルニ供シ各釜ハ各々別個ノ焚口ヲ有ス
 - 四、運轉手ノ位置ト炊事設備ノ間ニ數多ノ貯藏室アリテ必要ナル器具ヲ格納シ且約一千吉瓦ニ對スル糧食品及燃料ヲ積載スルコトヲ得ルモノト爲シ箱ノ側方ニハ調理臺ヲ吊シ置クモノトス
- 以上ノ如ク設備シタル炊爨自動車ハ不整地又ハ道路外ニ進出シ能ハサルノ不利アルモ其ノ速力大ナル爲メ左ノ利益アリト云フ

- 一、所屬軍隊ニ跟隨スルノ必要ナキヲ以テ常ニ敵ノ砲撃等ニ對シ安全ナル距離ニ停止セシメ只給養實施ニ際シテ前方ニ招致シ任務終了後再ヒ後方ニ復歸セシムルコトヲ得
- 二、發動機ハ假令歩兵ノ射撃又ハ速射砲ノ命中ヲ受クルモ其ノ働キヲ失ハサルカ若クハ比較的短少ノ時間ニ豫備品ヲ以テ補修シ得ルヲ以テ其ノ損害ハ繁駕炊爨車ニ比スレハ僅少ナリトス
- 三、發動機ノ外部ヲ砲楯ノ如ク鋼鐵板ヲ以テ蔽フトキハ確實ナル保護ヲ與フルコトヲ得

現戰役ノ使用品

現歐洲戰役ニ於テ各國カ使用シアル野戰炊爨自動車一、二ノ概況ヲ示セハ左ノ如シ

英國 煮沸器具全部ヲ備フル完全ノモノニシテ肉汁鍋ト「フライ」鍋トヲ十四箇以上懸架シ得ル大竈ト三十五「ガロン」入ノ水槽トヲ備ヘ該水槽ニ附スル栓及附屬具ニ依リ自由ニ冷水ヲ供給シ得ルノミナラス截肉臺調理臺石炭容器及汁器戸棚ヲ設ケ「アセチリン」瓦斯ヲ以テ車内ヲ照明ス

露國 乗合自動車型ヲ爲セル車匡ヲ三十馬力ノ發動機ヲ有スル普通ノ二噸積

湯沸用自動車

自動車ノ車臺上ニ裝置シ車匡ノ内面ニハ全部「アルミニウム」板ヲ張り中央部ノ通路ニ依リテ二箇ノ竈ニ分チ各竈ニハ各二箇ノ相異ナル鍋ヲ附着ス其ノ大鍋ハ圓形ニシテ二百「リットル」ノ容積ヲ有スルモノニシテ副食物用トシ小鍋ハ矩形ニシテ八十「リットル」ノ容積ヲ有シ茶若クハ珈琲ヲ煮ルニ用井一回ノ炊爨ヲ以テ約五百人分ヲ供給シ得ルト云フ

以上ノ外繋駕式野戰炊爨車、同一構造ノモノヲ自動車ニ接續シ得ル如ク構造シテ使用セリト云フ

湯沸用自動車ハ蒸氣罐ヲ設置シテ湯沸釜ヲ熱スルモノト發動機ヨリ直接動力ヲ傳ヘ更ニ發電シテ加熱スルモノトニアリ歐洲各國ノ朝食ハ單ニ珈琲ト麵麩トヲ用ユルノミナルヲ以テ之ニ依リ一般ノ朝食ヲ爲シ冬季ハ温湯ヲ與ヘ夏期ハ生水飲用ノ害ヲ防クヲ得ト云フ

炊爨及湯沸用自動車ハ一般ノ自動車ニ比シ稍小ニシテ自重二乃至三噸ノモノヲ多シトスト云フ

高級團體ノ裝備

第四節 高級團體ノ給養裝備

此ノ裝備ハ軍隊ノ給養裝備ト稍其ノ性質ヲ異ニシ單ニ幅重トシテ軍ニ跟隨シ糧

秣ノ交付ヲ爲スニ止マラスシテ糧秣追送ノ業務ニ任スルモノトス故ニ此ノ裝備ノ大小ハ作戰ノ狀況、戰場ニ於ケル物資及交通力並ニ其ノ國ノ慣用食物等ニ依リテ決定セサルヘカラス從テ各國ニ於ケル給養裝備ハ區々ナルノミナラス皇國ニ比スレハ野戰麵包燒縱列及屠獸廠ヲ有スルヲ異ナリトス

現歐洲戰役ニ於テ戰爭力戰線ニ固定シ毫モ發展セサルニ至リタル以來鐵道ヨリ直接ニ軍隊ニ糧秣ヲ補充シ此ノ裝備ハ單ニ迅速ナル運動ニ利用スル豫備機關ト爲シ軍隊ト糧秣補給點トノ間ニ於ケル糧秣受授ノ媒介ニ供セラル、コト稀ナリト云フ

第一 糧食縱列ノ編成

糧食縱列ハ高等司令部ニ於ケル運用ヲ簡便ニスル爲メ軍隊編制ノ方法ニ準據シテ若干ニ區分シ且其ノ各部ヲシテ一時獨立ノ動作ヲ爲シ得ル如ク編成スルヲ要ス

糧食縱列ノ編制ハ前項ノ外其ノ任務ニ依リ職員ノ素質ヲ異ニセサルヘカラス即チ純然タル輸送業務ニ服セシムルトキハ輻重ノ幹部、輸卒及材料ノ補修、裝蹄並ニ自己ノ經理ニ要スル人員ヲ以テ編成シ縱列長自ラ其ノ積載品ノ管理ニ任シ以テ

糧食縱列ノ編成

糧秣補充機關附屬ノ利害

分配ノ迅速ヲ期セシムルヲ可トス之ニ反シ縱列ヲシテ積載品ノ補充及分配ニ任セシムルトキハ給養勤務ニ服スルモノヲシテ編成ノ一部タラシメサルヘカラス後段ノ方法ハ各國之ヲ採用スルモノ少ナカラスト雖モ給養勤務ノ職員ヲ多大ナラシムルノ害アリトス

英國 糧食縱列ハ補充部(通常部長大尉一、准士官一、下士三、卒九)及輸送部(部長中少尉ノ二部ヨリ成リ其ノ補充部ハ糧秣ノ收集及支給ニ任シ富裕ナル地方ニ在テハ縱列自ラ其ノ積載品ヲ現地物資ニ依リ補充スルヲ原則トシ其ノ任務ノ執行ハ配屬團隊ニ依リテ異ナルモ通常經理、支給、生獸ノ管理及屠殺ノ三勤務ニ分チ支給ニ當リテハ麵包、肉、其ノ他ノ品種ニ分チテ分擔セシム

佛國 軍團糧食縱列ニハ經理官二名、經理部准士官二名及經理部下士卒三十二名ヲ屬シ其ノ補充ハ特別ノ命令ヲ待タズ地方物資ニ依リ自ラ行フヲ例トス然レトモ現歐洲戰役ニ於テハ開戰當初ノ外ハ殆ント自ラ補充ヲ行フコト能ハス屠獸ノ如キハ殆ント全部追送ヲ受ケツ、アリト云フ

埃國 師團糧食縱列ハ給養部輻重部ニ區分シ其ノ縱列長ハ一、二等給養官トシ各梯隊(一縱列ヲ五箇ノ梯隊ニ分ツ)ニハ豫備給養官補一名ヲ定屬シ之ニ給養

下士卒若干名ヲ從屬セシム

獨國 糧食及車廠縱列ニ在ル糧秣ノ受領及交付ハ經理官協力ノ下ニ縱列長之

ヲ行ヒ積載品ノ損害モ此ノ兩官共同シテ證明スルモノトス

糧食縱列ノ積載品ヲ如何ニ區分スヘキヤハ積載力ヲ減殺セサルト一ニハ分配ヲ

迅速且容易ナラシムルコトヲ願慮スルヲ要ス然レトモ此ノ兩要求ハ相反對スル

左ノ利害ヲ有スルモノトス

一、給養品ノ積載力ヲ大ナラシムル爲ニハ各種類毎ニ車輛ニ積載スルヲ可トス

此ノ方法ハ各車輛ノ積載力ヲ遺漏ナク利用スルコトヲ得ルモ狀況ニ依リ縱

列ヲ分割シテ使用シ若クハ縱列ヲシテ其ノ積載品ヲ直接各部隊ニ分配セシ

ムル爲ニハ大ナル手數ヲ要スルヲ以テ分配ヲ迅速且容易ナラシムルノ要求

ニ適セス然レトモ縱列ヲシテ單ニ倉庫間ノ輸送ニ任セシムル場合ニハ其ノ

積載卸下ヲ容易ナラシムルノ利益アリトス

二、給養品ノ分配ヲ迅速且容易ナラシムルニハ各種類ヲ混淆シ聯大隊等ニ直ニ

分割シ得ル如ク定員ノ人馬ヲ基礎トシ若干ノ車輛ニ獨立シテ積載スルヲ可

トス此ノ法ハ分配ヲ容易ナラシムルコト勿論ナリト雖モ左ノ缺點アルモノ

トス

1、軍隊ハ地方物資ヲ利用シテ其ノ需要ヲ充タシ只不足品ノミニ就キ縱列

ヨリ補充ヲ受クルヲ原則ト爲ス國ニ於テハ不用品ヲ受領スルニ至ルノ

ミナラス軍隊ノ調辦事業ヲ不振ナラシムルニ至ルヘシ

2、編成複雑トナリ且定量寡少ナルモノニアリテハ其ノ梱包ヲ煩雜ナラシ

ムルノミナラス積載量正確ナルヲ以テ其ノ若干車輛ヲ毀損セハ痛切ニ

不便ヲ感スルモノトス

3、品種別積載法ヨリモ多數ノ車輛ヲ要シ其ノ積載力ヲ充分ニ利用スル能

ハス

以上ノ外軍隊區分ニ依ル積載法ハ之カ分配ニ當リテハ定員ヲ基礎トシ其ノ現在

人馬ノ如何ヲ問ハサルヲ一般トスルヲ以テ(英、埃國ノ如シ)埃國ノ如ク突然他ノ軍

隊ヨリ到着スル傳令、斥候隊等ノ爲ニハ常ニ現在人員ヨリモ多數ノ糧食ヲ調理シ

置クヘキコトヲ命スルノ必要ヲ生ス從テ既ニ述ヘタル如ク英國カ給養品濫費ノ

批難ヲ受ケタルカ如キ弊ヲ生スヘシ之ニ反シ糧食縱列カ其ノ車輛ヲ破損シテ全

積載品ヲ交付シ能ハサル場合ニ於テハ其ノ不足ニ甘ンセシムルノ弊ヲ生スルモ

縦列ノ區分

ノトス

故ニ給養品ノ積載ハ此ノ兩法ヲ折衷シ若干部隊ヲ一團ト爲シ得ル如ク縦列ヲ區分スルヲ可トス而シテ其ノ單位ハ戰術上ニ於テ屢々使用セラル、軍隊區分ヲ基礎ト爲スヲ適當トス何トナレハ前衛側衛ノ如キハ糧秣受領ノ爲メ大行李ノ行程ヲ大ナラシメサル爲メ本隊ト同一地ニ於テ糧秣ヲ分配スルコト能ハサルコト多キヲ以テ糧食縦列ヲ分割シテ別ニ分配所ヲ設置スルノ必要屢々生スルノミナラス卸後ニ於ケル分配ヲ混雜ナラシメサルノ利アレハナリ

獨國ノ方法

獨國 糧食縦列ハ同種類ノ給養品ヲ同一車輛ニ積載スルモ其ノ分隊ハ一定ノ單位タル軍隊ニ配當シ多數ノ場所ニ分割スルヲ容易ナラシムル爲メ左ノ如ク編制シ必要ノ場合ニハ各車輛ヲ軍隊所在地附近ニ至ラシメ直接其ノ積載品ヲ軍隊ニ交付セシム

- 一、一縦列ヲ概ネ二小隊ト爲シ各小隊ヲ三分隊ニ區分ス
- 二、合計六箇分隊ノ内四箇分隊ハ糧食ヲ、二箇分隊ハ馬糧ヲ積載ス
- 三、糧食ヲ積載スル一箇分隊ハ歩兵一聯隊砲兵一大隊及騎兵一中隊ニ相當スル量ヲ積載ス

獨國輜重ノ區分

然レトモ糧食縦列全體ニ於ケル編成ハ左ノ如ク甚タ複雑トス其ノ原因ハ主トシテ歴史上ヨリ來リシト云フ(積載法ノ煩雜ナル爲メ特ニ之ニ關スル便覽等ヲ編纂シアルモ經理官ハ平時ヨリ之カ根本的研究ヲ要スト云フ)

給養輜重ハ糧食縦列及車廠縦列ニ分チ糧食縦列ノ車輛ハ輕快ニシテ積載ノ儘速歩行進ヲ爲シ得ルモ車廠縦列ハ空車ニアラサレハ速歩行進ヲ行フコト能ハサルモノトス

糧食縦列ハ二小隊ニ區分シ其ノ積載品(積載量合計二萬七千吉瓦トス)ハ左ノ如シ

- 一、歩兵一師團ニ對スル一日分ノ糧食又ハ半日分ノ燕麥
- 二、騎兵師團ニ對スル四分ノ三又ハ彈藥縦列及輜重一梯隊ノ一日分ノ糧食及燕麥

車廠縦列ハ三小隊ニ區分シ其ノ積載品(積載量ハ糧食縦列ノ二倍ニシテ合計五萬四千吉瓦輜重馬縦列ハ九萬吉瓦トス)ハ左ノ如シ

- 一、歩兵師團及彈藥縦列並ニ輜重一梯隊ノ一日分ノ糧食及燕麥
- 二、騎兵師團又ハ一軍團ノ彈藥縦列及輜重ノ一日半分ノ糧食及燕麥

故ニ步兵師團ノ戰鬪部隊ニ對スル約一日分ハ糧食縱列二箇或ハ車廠縱列一箇ヲ以テ充當シ軍團ニ對スル約一日分ハ糧食縱列四箇或ハ車廠縱列二箇ヲ以テ充當スルコトヲ得

埃國ノ區分

埃國 糧食縱列ハ戰鬪序列ニ準シテ軍隊毎ニ(步兵聯隊砲兵聯隊師團騎兵等)ニ區分シ各軍團ニ分進配當シ得ル如ク給養品ヲ積載ス

日量ヲ異ニスルモノノ積載

糧食縱列ニ於ケル補充ヲ容易ナラシムル爲メ其ノ積載品ヲ日量ニ區分スルニ當リ携行スヘキ日量ヲ異ニスル品種アルトキハ之ヲ獨立ノ區分トナスヲ要ス

露國 師團糧食縱列ハ五小隊ニ區分シ第一乃至第四小隊ハ各師團一日分(約一萬八千二百分)ノ糧食乾麵包、挽割麥、鹽茶、砂糖及全小隊ニシテ乾野菜一日分(各小隊各四分ノ一日分宛)ヲ積載シ第五小隊ハ二日分ノ罐詰肉及被服其ノ他臨時補充ヲ要スル物品ヲ携行シ各小隊ハ自己給養ノ爲メ大行李ヲ有ス
軍團糧食輸送隊ハ四小隊ニ分テ第一乃至第三小隊ハ各二分隊ニ分テ各其ノ第一分隊ニ軍團一日分ノ糧食(約四萬人分)其ノ第二分隊ニ同半日分ノ燕麥(約八千頭分)ニシテ全軍團ノ馬匹約一萬六千頭分ヲ備ヘントセシモ車輛數ノ増加ヲ避クル爲メ半減セリヲ積載シ第四小隊ハ騎兵及乘馬砲兵ニ對スル一日

分ノ罐詰肉、乾野菜及軍團輸送隊司令部ノ物品ヲ積載シ各小隊ハ自己給養ノ爲メ大行李ヲ有ス故ニ糧食、馬糧ノ必要ニ應シ其ノ分隊ノミヲ前方ニ推進セシムルヲ得

露國平時ノ輜重大隊ハ戰時ニ當リ軍ノ糧食輸送隊ヲ編制シ師團ハ只若干ノ幹部ヲ有スルニ過キササルヲ以テ動員ニ當リ各步兵聯隊ヨリ所要ノ人員材料ヲ派遣シ始メテ師團輜重ヲ編成ス、砲兵旅團師團ニ屬セラレトキハ此ノ旅團ヨリモ人員材料ヲ派遣ス故ニ師團輜重ハ各隊ノ集成部隊タルノ觀アリト云フ又糧食輸送隊ノ材料ハ各隊若クハ軍團經理部ニ於テ保管シ軍團長ノ命スル大佐又ハ中佐ヲ平素ヨリ教成シテ之カ長ト爲シ豫備役ノ步兵及騎兵下士卒ヲ以テ編成スルカ如シ

以上ノ如ク糧食縱列ノ積載法ハ國ニ依リ其ノ方法ヲ異ニシ或ハ積載品種ノ日量ヲ異ニセリ而シテ其ノ日量ヲ異ニスルノ方法ハ戰地ニ於ケル物資ノ狀況ニ依リ必要トスル處置ナリト雖モ此ノ如ク一定ノ積載法ニ依ルコトハ殆ント發達ノ當初ニ限ルヲ免カレサルモノトス何トナレハ戰地ニ於テハ適切ニ現地物資ノ狀況ヲ判斷シ其ノ利用シ得ヘキ糧秣ノ携行數ヲ減少シ單ニ調辨困難ナル品種ノミヲ

戰地ニ於ケル積載

積載シテ縦列ノ疲勞ヲ避ケシムルヲ必要トスレハナリ

第一 給養輜重ノ配屬法

給養輜重ヲ如何ナル高級單位ニ配屬スヘキヤハ主トシテ用兵上ノ顧慮ニ基キ決定ス即チ作戰ノ爲メ軍團ヲシテ一道路ヲ行進セシメ師團ニ各別ノ道路ヲ取ラシメサルヲ必要ト認ムルモノハ軍團ニ附屬シ之ニ反スルモノハ師團ニ附屬シ或ハ之ヲ折衷シテ師團軍團共ニ之ヲ附屬スル等各國其ノ見ル所ニ依リ異ナルモノトス

騎兵師團其ノ他軍團若クハ師團ノ連繫ニ屬セサル獨立諸團隊ニモ亦爲シ得ル限リ特ニ給養輜重ヲ配屬スルヲ要ス何トナレハ此等ノ輜重カ臨時師團等ニ配屬セルトキハ師團ノ縦列ヲ分割シテ給養セサルヘカラサルヲ以テ非常ナル煩雜ヲ生スレハナリ

一軍内ニ於テハ某團隊ノ給養輜重ヲ他ノ團隊ニ一時轉屬セシムルコトアリ然レトモ此ノ轉屬ハ已ムヲ得サル場合ニアラサレハ之ヲ避クルヲ要ス何トナレハ給養輜重ノ移動ハ其ノ團隊補給上ニ於ケル計畫ヲ複雑ニシ編成ヲ混亂セシムルニ至レハナリ然レトモ兵站輜重ヲ師團若クハ軍等ニ増加シ其ノ輜重ヲ強大ナラシ

給養輜重ノ配屬

騎兵師團其
他獨立團體

輜重ノ轉屬

ムルノ必要ハ屢々發生スルモノトス

第三 騎兵師團ノ給養輜重

騎兵師團ニ給養輜重ヲ附屬スルノ要否ハ現地物資ヲ利用シテ給養シ得ルヤ否ヤ及騎兵ノ行動ヲ掣肘スル程度如何等ノ判斷等ニ依リ各國其ノ見ル所ヲ異ニスルコト左ノ如シ

獨國 騎兵師團ニ糧食縦列ヲ有セス必要ト認ムルトキハ軍團又ハ兵站ヨリ臨時縦列ヲ送付シ又ハ徵發車輛ヲ以テ編成ス其理由トスル所ハ左ノ如シ
騎兵大集團ハ軍ノ正面前若クハ側翼ニ於テ行動スル間ハ概シテ戰地ノ物資ニ依リ給養スルヲ得ヘシ故ニ之ヲ適當ニ利用セシムル爲メ徵發車輛ヲ以テ良好ナル繫駕糧食縦列ヲ編成スルヲ可トス但シ軍司令部ノ命令ヲ以テ主トシテ燕麥ヲ積載スル四馬曳糧食縦列ヲ附屬セシムルコトヲ得

佛國 騎兵師團ハ軍ノ線内ニ入ルトキハ他ノ軍隊ト同一ノ方法ヲ以テ給養シ若シ此ノ如キ状態ノ連續スルトキハ必要ニ應シ徵發車輛ヲ以テ臨時四日分ヲ積載スル糧食縦列ヲ編成ス然レトモ運動間ニ在テハ之ヲ利用スルコト少ナキヲ以テ前進ニ際シ解散スルヲ例トス但シ別ニ物資徵集班(乘馬經理官)一

騎兵師團ノ
輜重

下士四、上等兵、雇員等ヨリ成ルヲ配屬シアリ

現戰役ニ於テハ騎兵師團活動シ得ル時機ニハ各人其ノ鞍ニ二日分ノ糧秣ヲ
攜帶シ爾後ハ狀況ニ依リ自動車ヲ以テ補充シ之カ爲メ軍鞍ニハ二日分ノ糧
秣ヲ容ル、革袋ヲ附着シ得ル装置ヲ爲シアリト云フ

露國 騎兵師團ニハ定規ノ輜重ヲ有セス滞在間ニ於テハ軍輸送隊之カ補給ヲ
擔任ス

奧國 騎兵師團ニ糧食縱列及野戰麵包製造所各一箇ヲ附屬ス

騎兵師團ニ糧食縱列ヲ附屬スルノ狀況前陳ノ如シ近時自動車發達シ騎兵ノ運動
ヲ輕快ナラシムルト補給ニ關シ單獨行動ヲ爲ス場合ニ於ケル自衛力ヲ具備セシ
ムルトノ利益ヲ有スルニ至リシヲ以テ各國共自動車縱列ヲ附スルニ至レリ

第三 師團ノ給養輜重

師團ニ給養輜重ヲ配屬スルモノハ師團ノ獨立作戰ヲ容易ナラシムルノ利アリト
雖モ現今ノ如ク兵數増加シタル場合ニハ二、三ノ師團ヲ狹少ナル地區ニ合一シテ
指揮スルノ必要ヲ生スルコト少ナカラス此ノ如キ場合ニハ師團戰列隊ノ運動ヲ
容易ナラシムル爲メ其ノ輜重ノ若干ヲ分割シテ軍ノ後方ニ集結セサルヘカラサ

師團ノ給養
輜重

近時ノ狀況

英 國

ルノ煩雜ヲ來スコトアルヘシ

奧國及英國ハ師團ニ給養輜重ヲ附屬スルノ方法ヲ採用ス

英國 野戰師團ニ左ノ給養輜重ヲ附屬ス

一、糧食縱列一箇 尋常糧食、嗜好品及加給品、携帶口糧各一日分及馬糧燕麥一
日分ト壓搾馬糧若干ヲ積載ス但シ携帶口糧ニ對スル車輛ハ別ニ區分シテ
迅速ニ輸送シ得ル如ク編成ス

二、師團糧秣廠 遊動倉庫ノ性質ヲ帶ヒ兵站末地ノ倉庫ト糧食縱列トノ連絡
ニ任シ以テ師團ノ行動範圍ヲ擴張セシムルモノニシテ隸屬師團騎兵師團
並ニ軍直屬部隊ニ對スル三日分並ニ彈藥縱列ニ對スル四日分ノ糧秣輸送
力ヲ有セシムルモノトシテ定員ヲ規定スルモ普通三部ニ分チ馱馬編成一
車輛編成トシ各部ハ各一日分ノ糧秣輸送力ヲ有ス

現歐洲戰役ニ於テハ陣地戰ニシテ糧秣補充ノ容易ナル結果左ノ如ク改正セ
シト云フ

一、師團輜重 馱馬編成ノ野戰師團及軍直屬部隊用ノ大行李ヲ一纏ト爲シ輜
重ノ名稱ヲ付シ行動セシムルモノニシテ本部及四箇中隊ヨリ成リ内三箇

現戰役ノ變
更

中隊ハ步兵三箇旅團及野戰病院三箇ノ糧秣及荷物ヲ輸送シ他ノ一箇中隊ハ其ノ他ノ諸部隊ニ必要ナルモノヲ輸送ス

各中隊ハ荷物小隊ト補給小隊ニ區分シ荷物小隊ハ軍隊宿營ニ要スル諸品ヲ輸送シ補給小隊ハ通常空車ノ儘行進シ其ノ日ノ午後ニ至リ自動車縱列ヨリ糧秣ヲ受領シ翌日ニ要スル糧秣ヲ軍隊ニ交付ス故ニ各中隊ノ補給小隊ハ荷物小隊ト分離シ相合シテ一團トナリ行進スルヲ常トス

二、師團糧秣廠 糧食縱列及師團糧秣廠ノ輻重縱列ヲ廢シテ自動車縱列ヲ採用シ野戰師團ハ二日分騎兵師團ハ一日分ノ尋常糧秣ヲ輸送シ得ル如ク編成ス故ニ携行糧秣ノ日數ヲ減少セシモ自動車縱列一日ノ行程ハ九十哩輻重縱列ハ連續使用スル場合ニハ一日行程二十五哩ヲ最大限トスルヲ以テ自動車縱列一箇ハ輻重縱列約四箇ニ相當スルニ因リ携行糧秣ノ減少ハ毫モ補給力ヲ減セシニ非ス却テ之ヲ増加シタルモノトス

野戰麵麩製造所及屠獸廠ハ前進基地及調節停車場ニアラサル鐵道線路上ノ要地ニシテ屠獸所ハ端末停車場ノ前方ニ置クヲ規定トスルモ現戰役ニ於テハ前者ハ調節停車場其ノ他數箇所ニ分置シ後者ハ軍團司令部所在地附近ニ設置シ

アリト云フ

埃國 步兵師團ニ糧食縱列及野戰麵麩製造所各一個ヲ附屬ス但シ師團ノ獨立ヲ要セスシテ軍團カ一團隊トナリテ行進スルカ如キ場合ニアリテハ軍團輻重トシテ一集團ニ集結スルモノトス

糧食縱列ハ五箇ノ給養梯隊ニ區分シ其ノ第一ヨリ第四迄ノ梯隊ハ各一日分ノ追送定量ヲ第五梯隊(豫備梯隊)ハ三日分ノ豫備定量及一日分ノ糖水酒ヲ積載ス

埃國軍團糧食縱列特徵

埃國ハ軍團ニ左ノ糧食縱列ヲ有スルモ其ノ積載品ハ全軍團ノ豫備品ニ非ラズ軍團直屬部隊ノ給養ニ充ツルニ過キス故ニ軍團糧食縱列ハ一團トナリテ行進スルモノニ非スシテ常ニ步兵師團ノ糧食縱列ト合シテ行進ス

軍團糧食縱列 軍團司令部及軍團直屬部隊ノ人馬ニ對スル四日分ノ追送定量ト三日分ノ豫備定量並ニ加給品一日分ヲ積載ス

軍團麵麩製造所屠獸廠(四日分ニシテ牡牛五百四十頭ヨリ成リ二十頭毎ニ一名ノ牽牛者ヲ附ス)各一個其他臨時ニ野戰給養倉庫ヲ附屬スルコトアリ

第四 軍團ノ給養輻重

軍團ニ給養輻重ヲ配屬スルモノハ軍團ヲ作戰單位ト爲スモノニシテ師團ヲシテ若干日獨立シテ作戰セシムルヲ要スルトキハ軍團ニ屬スル輻重ヲ分割シテ之ニ配屬セシメサルヘカラス故ニ軍團ノ給養輻重ニ在リテモ亦師團ヲ單位トシテ區分シ得ル如ク編成スルヲ要ス獨國及佛國ハ此ノ方法ヲ採用ス

獨國 軍ニ左ノ給養輻重ヲ附屬ス但シ豫備師團ニハ獨立作戰ノ能力ヲ附與スル爲メ糧食縱列二箇車廠縱列三箇ヲ附屬シテ約四日分ノ糧秣ヲ携行セシメ且野戰麵麩製造所及屠獸廠ヲ附屬ス

一、糧食縱列及車廠縱列 輻重兵二箇大隊ニシテ其ノ一大隊ハ糧食縱列三箇、車廠縱列三箇内一箇大隊ハ軍團ノ豫備的性質ヲ有スル糧秣ヲ積載スル豫備車廠縱列ヲ有シテ四箇トスニシテ合計糧食縱列六箇車廠縱列七箇ヲ有シ約軍團戰鬪部隊ノ五日分又ハ全軍團及騎兵半師團ニ對スル四日分ノ糧食ト三日分ノ燕麥ヲ携行ス

二、野戰麵麩製造所 二箇ニシテ二縱列ヲ合シ軍團一日分ノ需要高ヲ日々製造スルコトヲ得

現歐洲戰役ニ於テハ東西ノ相反スル二方面ニ打擊ヲ與フルノ必要ヲ生シタル

ヲ以テ軍團ノ移動力ヲ極度ニ發揚スル爲メ千九百十五年ノ春ヨリ逐次編制ヲ改正シ師團ニ獨立的性能ヲ有セシムル如ク輻重ヲ具備セシメ軍團ハ主トシテ統帥上ノ一機關トシテ保存スルニ過キサルカ如ク爲セシモノ少カラスト云フ佛國 軍團ニ左ノ給養輻重ヲ附屬ス但シ各步兵師團ニハ補給用ノ家畜群(二分)及物資徵集班(乘馬經理官一、下士四、上等兵四及經理部書記職工二十八名ヨリ成ル)ヲ附シ師團獨立スルトキハ臨時ニ糧食縱列及野戰麵麩製造所ヲ附スルコトアリ

一、糧食縱列一箇(二日分) 糧食縱列ハ二小隊ニ區分シ各小隊ハ全軍團ノ人馬ニ對スル一日分ノ糧秣ヲ有シ各小隊内ニ於テ更ニ軍團ニ屬スル師團數ト同數ノ車輛群ニ區分シ其ノ車輛ハ制式車輛ト徵發車輛ヲ併用ス

二、屠獸廠(一日分ニシテ生肉約二千吉瓦ヲ積載シ得ル自動貨車十五輛内外ヨリ成ル)自動車廠ヲ附屬ス及軍團直屬部隊ニ屬スル屠獸廠並ニ物資徵集班ヲ有シ時トシテ軍ノ給養輻重タル糧食縱列及野戰麵麩製造所ヲ臨時附屬スルコトアリ

從來糧食縱列ハ四小隊編成ニシテ四日分ヲ有セシモ軍團ノ運動ヲ輕捷ナ

ラシムルノ目的ヲ以テ其ノ二小隊ヲ軍ノ機關トシ同目的ヲ以テ屠獸廠モ亦一日分ヲ減少シ野戰麵麩製造所ハ全部軍ノ機關ト爲セリ

第五 師團ト軍團トニ分屬スル給養輜重

給養輜重ヲ師團ト軍團ニ分屬スルノ方法ハ師團ノ運動ヲ輕捷ナラシムル爲メ之ニ少數ノ給養輜重ヲ附屬シ軍團ニ於テ豫備糧秣ヲ携行シ之ヲ以テ師團ノ給養輜重ヲ補充スルモノニシテ必要ノ場合ニハ師團輜重ヲ増加シ之ヲシテ永ク獨立シテ作戰セシムルヲ得ルヲ以テ屢々師團ヲ獨立シテ使用セサルヘカラサル場合ニ在テハ有利ナルモノノ如シ露國ノ編成ハ之ニ類似ス

露國ノ輜重

露國 師團糧食縱列 師團輜重ニ屬スル部隊四日分ノ糧食及二日分ノ罐詰肉並ニ一日分ノ乾野菜ヲ積載ス(本節第一參照)

軍團輸送隊 師團糧食縱列ヲ補充シ必要ノ場合ニハ騎兵、乘馬砲兵及哥薩克兵ノ聯隊及中隊輜重ニ對シ直接糧秣ヲ補充シ且師團編成ニ屬スル各部隊ノ馬匹ニ馬糧ヲ補充スルモノニシテ約三日分ノ糧秣ヲ携行ス

此ノ輸送隊ハ日露戰役ノ際ニハ戰地ニ在ル一部ノ軍團ニ設ケタルニ過キサリシモ戰役ノ結果有利ナルヲ認メ千九百六年ニ至リ之ニ關スル規則ヲ

發布セシモノニシテ軍輸送隊ト共ニ軍ノ後方ニ於ケル共通ノ輸送機關トス

野戰生獸群 軍隊生肉ヲ自給シ能ハサル場合ニ分配スルモノニシテ消費及

豫備生獸群ニ區分ス

野戰消費生獸群 動員セラレタル各軍團ニ一箇ヲ附シ軍團經理部長ノ管理ニ屬スルモノニシテ普通牛二百五十頭乃至三百頭(全輜重ノ四日分ニ相當スヲ有ス)必要ノ場合ニハ牛一頭ハ羊六頭又ハ豚四頭ヲ以テ交換シ又其ノ管理ヲ師團等ノ經理部長ニ移スコトヲ得ルモノトス

野戰豫備生獸群 實際ノ必要ニ應ジ全正面軍ニ對スル二日間ノ肉給養ヲ

安全ナラシムル爲メ現地調辨又ハ本國ヨリノ追送ニ依リ正面軍經理部長ニ於テ準備スルモノニシテ必要ノ場合ニハ師團經理部長ニ其ノ管理ヲ移スコトヲ得ルモノトス

伊國 步兵師團ニ給養小隊(士官四、下士卒五百五十七、乘馬一、馱馬二、車輛四ヲ以

テ編成ス)アリ輜重糧食縱列尋常糧秣三日分ヲ有ス(糧食豫備廠豫備糧食及馬糧一日分ヲ有ス)アリ

第六 軍ノ給養輜重

軍ハ軍團ニ比スレハ一層廣大ニ獨立シテ作戰シ得ル如ク全軍ニ對スル豫備糧秣ヲ有スルヲ要ス之カ爲メ各國中軍自ラ若干ノ給養輜重ヲ準備携行スルモノト兵站ヲシテ專ラ之ニ任セシムルモノトアリ

獨國 最高指揮官ノ豫備トシテ軍車廠縱列各軍ニ輜重六箇内外ヲ動員シ其ノ配當ハ野戰經理長官ノ任トスヲ有シ道路不良ニシテ糧食及車廠縱列ノ積載量ヲ減少スル等ノ必要アルトキ之カ援助ニ供スルモノニシテ其ノ編制ハ輜重車廠縱列ト同一ト爲シ二箇縱列ヲ以テ約軍團一日分ノ糧秣ヲ積載ス

奧國 野戰給養倉庫ヲ有シ通常糧食縱列ト合同シテ直接給養品ヲ補充スルニ任スルモ時トシテ糧食縱列ノ補充ヲ爲サシムルコトアルモノトス
野戰給養倉庫ハ十五箇ノ梯隊ニ區分シ其ノ倉庫ニ指定セラレタル團體ノ爲メ十二箇ノ梯隊ニ追送定量四日分ヲ他ノ三箇ノ梯隊豫備梯隊ニ豫備給養品(罐詰)ヲ有ス

一輜重若クハ一ノ縱隊ニ要スル倉庫梯隊ノ數ハ各師團ニ五梯隊トシ其ノ内四梯隊ニ各一日分ノ追送定量第五梯隊ニ三日分ノ豫備給養品ヲ有セシム

佛國 糧食縱列(一軍團ニ對シ二箇縱列宛ニシテ二日分ノ糧秣ヲ有ス)軍屠獸廠(軍一日分ヲ最少限トス)生肉及若干ノ耐久肉ヲ有ス(軍麵包製造所)ヲ有シ狀況ニ依リ兵站機關タル補助縱列或ハ臨時縱列ヲ附スルコトアリ

軍ニ屬スル輜重ハ之ヲ軍團ニ附屬セシムルヲ原則トス若シ之ヲ附屬セサルトキハ軍司令官ハ兵站監ノ提案ニ基キ其ノ處置ヲ決定スルモノトス

露國 軍輸送隊(本編第四章參照)但シ軍ニ屬スルトキハ通常一萬人ニ對スル四日分ノ乾麵包、割麥、鹽及十日分ノ茶砂糖並ニ馬千六百頭ニ對スル燕麥四日分ヲ積載スルモノトス

伊國 軍ニ軍糧食倉庫(六日分ノ尋常糧秣ヲ有ス)糧食豫備廠(一日分ノ豫備糧秣ヲ有ス)野戰麵麩製造所及屠獸廠ヲ有ス

第七 各國ニ於ケル部隊給養裝備ノ比較

以上述ヘタル各國ニ於ケル給養裝備ノ日量ノ概要ヲ摘記セハ左ノ如シ

	獨國	奧國	佛國	露國	英國	同現戰役
携帶						
糧食	ニ	ニ	一	三	一、五	一
馬糧	一乃至三	三	一	一乃至三	〇、五	一

大行李	糧食 二乃至三	馬糧 一、五乃至二	一	一乃至二	二	一	六〇八
師團輜重	糧食	馬糧	七	七	三	約四	〇
軍團輜重	糧食 三	馬糧 四	(七)	(七)	一、五	約五	一
軍輜重	糧食	馬糧	七	七	二	四	一
計	糧食 八乃至九	馬糧 五、五乃至八	一七	一八	六乃至七	五、五	四
			一七	一八	五、五乃至七、五	七、五	四

以上ノ外各國共小行李ニアル野戰炊爨車ニ若干ノ糧秣ヲ携行ス
 之ニ依テ見レハ各國共馬糧ニ於ケル携行數ハ糧食ニ比スレハ僅少ナリトス之
 レ馬糧ハ糧食ニ比スレハ諸種ノ雜穀ヲ利用シテ現地給養ヲ爲スコト比較的容
 易ナルニ依ルモノトス
 露國 日露戰役前ニ於ケル舊編制ノ糧食携行數ハ携帶糧食二日半分、聯隊輜重
 ニ一日半分、師團輜重ニ四日分計八日分ニ過キサリシモ現今十二日分ニ増加

第八 野戰麵包製造所

歐洲諸國ト主食ヲ異ニスル皇國ニ在テハ野戰麵包製造所ノ研究ヲ必要トセサル
 モ近時主食ヲ麵包ト爲スノ論者モ少ナカラサルヲ以テ其ノ概要ヲ摘記セントス
 野戰麵包製造所ニ有スル燒爐ハ概ネ左ノ三種トス
 一、固定爐 煉瓦又ハ土製ト爲シ一所ニ固定シテ移動シ得ヘカラサルモノトス
 二、爐車 麵包ヲ燒製スル移動ニ便ナル爐車ニシテ各國共千九百年ノ初ヨリ採
 用セルモノトス
 三、組立爐 金屬製ト爲シ組合セ又ハ取外シ得ル如クセシモノニシテ地形カ爐
 車ノ通過ヲ許ササル場合ニ多ク使用ス

野戰麵包製造所ニ麵包粉ヲ供給スル爲ニハ國ニ依リ特ニ輸送隊ヲ有スルト然ラ
 サルモノトアリ之ヲ有セサルモノニアリテハ野戰麵包製造所ヲ倉庫ト同一地ニ
 設置スルカ又ハ倉庫ノ前方ニ推進セシメ糧食縱列ヲシテ麵包ヲ受領スルト
 同時ニ倉庫ヨリ他ノ給養品ヲ受領スルヲ容易ナラシムルモノトス
 佛國 野戰麵包製造所ニハ常置トシテ地方ニ頭曳馬車百輛ヨリ成ル輸送隊ヲ

備へ該所ヨリ軍團糧食縦列ニ麵包ヲ追送シ又ハ麵包粉ヲ徵集地若クハ倉庫ヨリ野戰麵包製造所ニ輸送スルニ任セシム

埃國 地方二頭曳馬車八十輛ヨリ成ル獨立ノ粉輸送隊ヲ有シ日々六萬人分(一箇軍團ノ一日分)ノ麵包粉ヲ供給シ且燒成ノ麵包ヲ受領シテ補給スルニ任セシム

獨國 麵粉輸送ニ任スル機關ヲ有セス其ノ供給ハ軍兵站經理部長ノ任トス之カ爲メ該經理部ニハ特種ノ輕自動車ヲ有ス

野戰麵包製造所ノ配屬ハ左ノ如シ

埃國 三箇師團ヨリ成ル軍團ニ四箇ヲ附シ内三箇ハ各師團ニ配當ス他ノ一箇ハ其ノ規模他ニ比シ二分ノ一ニ過キサルモノニシテ師團編成外ノ諸部隊及軍團諸機關ノ需要ニ供スルモノトス

獨國及露國ハ二箇師團ヨリ成ル軍團(兵員約四萬)ニ二箇ヲ有ス佛國ハ軍團ニ軍ノ機關タルヲ正規トス(四班ヲ附スルモノトス然レトモ現戰役ニ於テ陣地戰トナリタル戰場ニハ後方ニ於テ製造シタル麵包ヲ戰線ニ到着セシメ得ルヲ以テ此ノ製造所ノ必要ヲ認メサルニ至リシト云フ

配屬

編成

一軍團ニ附屬スル野戰麵包製造所ノ編成ハ麵粉ノ携行數及爐車ノ構造(露國ハ他國ニ比シ最モ不完全トス)並ニ車輛ノ大小佛國ハ四頭曳埃國ハ二頭曳ト爲スカ如シ等ニ依リ大差アルモ其ノ概要ハ左ノ如シ

	埃國	佛國	獨國	露國
爐車	三五	三三	二四	四四
輜重車輛	二四五	五二	二六	一五八
製麵部將校相當官	一八	四	二	?
同下士卒	七〇〇	三五九	二二八	三九六
輜重部將校相當官	七	四	六	一五八
同下士卒(外ニ地方取者三五九)	一七五	二二二	一四〇	?
馬匹	六〇七	三四〇	一九八	三五六

第五節 輜重ノ統轄及運動

給養輜重ヲシテ軍ノ運動力ヲ妨碍セシメサル爲ニハ必要缺クヘカラサルモノノミヲ軍隊ノ近傍ニ接近セシメ自餘ノ部分ハ若干ノ距離ヲ取リテ後方ニ跟隨セシメ補給ニ際シテハ機ヲ失セス目的地ニ到達セシムルヲ要ス

輜重ノ統轄

輜重司令官

前項ノ目的ヲ達スル爲ニハ個々ノ輜重ヲ獨立ニ運動セシメシテ一途ノ指揮ニ任スルヲ要ス故ニ軍隊輜重モ亦通常合シテ一團ト爲シ之ニ指揮官ヲ付シテ統一セシメ師團若クハ軍團ノ輜重ハ其ノ必要ノ程度ニ應シ通常二梯隊ニ區分シ各梯隊ニ各指揮官ヲ付シ軍ニ跟隨セシムルノミナラス輜重ノ編成複雜ニシテ且多大ナル國ニ在テハ之カ運動ヲ規畫スル爲メ更ニ高等司令部分ニ専門家ヲ附屬シ輜重ニ關スル細部ノ事務ヲ掌ラシムルモノ少ナカラス

獨國 軍團司令官ニ輜重司令官ヲ置キ輜重梯隊ノ區分及人馬材料ノ補充整理ニ任セシメ參謀長ヨリ詳細ナル指定ヲ受ケ輜重ノ運動ニ關スル意見ヲ參謀長ニ具申スル等事務的業務ニ任シ直接指揮ヲ掌ルハ例外ノ場合トス
經理部長ノ職務上ニ於ケル糧食、車廠及麵麩燒縱列ニ對スル運用計畫ハ輜重司令官ノ協力ヲ以テ決定スルモノトス

輜重ノ行動

埃國 補助機關トシテ軍ニ輜重監督ヲ有シ軍團ニ軍團輜重司令官ヲ有ス
千九百八年携帶口糧ヲ一日分トシ一日分ヲ中隊糧食車ニ移シタル結果軍隊輜重ノ行動ヲ左ノ如ク三種ニ區別シテ行動セシム
一、常ニ軍隊ニ續行スル彈藥車、炊事車等

- 二、戰鬪車輛 糧食車、酒保車、器具車等
- 三、物品車、補助車輛等

敵ト遠隔シ師團一縱隊トナリ前進スルトキハ聯隊ノ戰鬪車輛ハ旅團毎ニ所屬旅團ノ後方ニ續行スルモ敵ト接近スルトキハ全師團ノ戰鬪車輛ハ一ノ輜重縱列トナリ戰鬪ノ際軍隊ノ附近ニ至ルヘキ衛生及彈藥機關等ノ後方ニ續行シ全軍團一縱隊トナリテ前進スル場合ニ於テモ亦之ニ準ス故ニ此ノ際ニハ携帶口糧ヲ携行スル糧食車ハ甚シク遠隔スルニ至ルヲ以テ各兵ニ携帶セシムルニ至ルヘシト云フ

輜重ノ行動

輜重ハ通常軍隊ト同一道路ヲ其ノ運動ニ隨伴シテ行動スルモノトス然レトモ現今大口徑砲使用ノ結果射距離ノ延伸シタルト航空機ノ發達シタルトニ依リ輜重ヲ戰線ニ近接セシムルヲ困難ナラシメタルノミナラス大ナル輜重ノ行進ハ我軍ノ兵力及企圖ヲ敵ニ察知セシムルノ機會ヲ與フルノ恐レアリ又交通及通信機關ノ發達ニ伴ヒ新企圖ヲ行ハントスル爲ニハ現歐洲戰役ニ於ケルカ如ク兵力ノ配置ヲ變更スルコト屢々行ハルヘシ此等ノ諸關係ハ輜重ノ行動ヲ秘スル爲メ夜行軍ヲ爲スノ必要ヲ増加セリト云フ

現歐洲戰役ノ例

現歐洲戰役ニ於テハ輻重ノ行動ヲ秘スル爲メ車輛ヲ樹枝木葉等ヲ以テ覆ヒ航空者ヲシテ路傍ノ並木ト見誤ラシムルヲ努メタルモノアリト云フ

軍敵ト遭遇セシトキハ總テノ輻重ハ本隊ノ後方適當ノ距離ニ停止シ行軍長徑ニ從ヒ若干部隊毎ニ一團トナリ數地區ニ開進スルカ或ハ行軍縱隊ノ儘停止シ隨時進退シ得ルノ準備ヲ爲サシメ輻重モ亦此ノ如キ場合ニハ假令命令ナシト雖モ一時停止シテ適當ノ處置ヲ爲シ之ヲ師團長ニ報告スルモノトス軍隊指揮官ハ之ト連絡ヲ密ニシ晝間敵ノ砲兵有効程内ニ前進セシメサルヲ要ス

現歐洲戰役ニ於テ埃軍第一次塞國進入ノ際第四軍團ハ八月十四日拂曉ヨリサ
 一、ブ河ノ軍橋ヲ架設シ十六日迄ニ渡河セシ兵力二箇師團ニ達セシモ敵ノ新ニ得タル増加兵ノ爲メ壓迫セラレ橋頭堡ノ維持大ニ困難ナルニ至リシヲ以テ當時未タ渡河ヲ終ラサリン步兵一箇旅團ニ迅速ニ渡河シ救援スヘキヲ命シタリ然ルニ該旅團軍橋ニ到達シタリシ際ニハ先頭部隊ノ輻重車輛カ軍橋渡過中ニシテ如何トモスル能ハス徒ニ其渡河ヲ傍觀シアリ此ノ際俄然軍橋ハ敵ノ砲撃ヲ受ケ長サ約三十米突ノ橋節ヲ流失シ工兵ハ軍橋ノ修繕ニ努力セシモ砲撃ノ爲メ徒勞ニ屬セシニ依リ旅團ハ渡船ヲ以テ僅ニ渡河シ戰鬪ニ加入スルコトヲ

行進方向ノ變換

輻重ノ停止距離

輻重ノ背進

得タリ然レトモ輻重ハ敵ノ砲撃ニ遭フヤ數百ノ輓馬車輛頗ル混亂ヲ極メ或ハ水中ニ溺レ或ハ各所ヲ狂奔シ一時全ク其ノ秩序ヲ失ヒテ潰亂ニ陥リ其ノ大部分ハサーブ河兩岸ノ道路ヲ後方ニ向ヒ逃走セシト云フ

軍カ行進方向若クハ正面ヲ變換スルトキハ殊ニ輻重ニ對スル道路網ノ分配ニ注意セサルヘカラス何トナレハ師團ニ續行スル輻重ハ迂路ヲ避クル爲メ最近ノ道路ヲ行進シ他ノ師團ト行進交叉ヲ起シ道路ヲ閉塞スルノ虞レアレハナリ

戰鬪間輻重ヲ停止セシムヘキ距離ハ一ニハ不意ノ退却ニ際シ戰鬪部隊ニ危害ヲ及ホササルト一ニハ積載品補充ニ際シ支障ヲ生セサル如ク決定セサルヘカラス戰鬪不利ニシテ軍隊背進ヲ爲スノ已ムヲ得サルニ至ルノ狀況アルトキハ時機ヲ失セス速ニ適當ノ位置ニ背進セシメ軍隊ノ行動ヲ妨碍セシメサルヲ要ス

千八百七十七年カケルエホノ戰鬪ニ於テ露軍ノ背後ハ灌木密生シ歩兵ト雖モ通過シ得ヘキハ唯エレンドチツクニ到ル谷中ノ道路アルノミトス而シテ此ノ戰鬪ハ豫メ期スル所ナリシニ拘ラス輻重ノ大部ヲ唯一ノ退却線ナルエレンドチツク附近ノ隘路中ニ停止セシメテ背後ノ危險ヲ顧慮セサリシヲ以テカケルエホノ戰利アラスシテ退却スルヤアブラツハノ陣地ヲ占領シテ諸軍ヲ收容セ

シモ退路ハ輻重ノ車馬ニヨリ填塞セラレ一騎卒ト雖モ通過スルコト能ハサリ
シノミナヲス此ノ道路ハ敵ノ掃射スル所タリシヲ以テ敵兵ヲ逆撃スルカ然ラ
サレハ軍ハ全滅セサルヘカラサルノ狀況ニ至レリ故ニ司令官ハ其ノ兵ヲ盡シ
テ第一線ニ配置シ騎兵モ亦悉ク下馬シテ第一線ニ進出セシメタリ幸ニシテ土
軍ハ誤テ新銳兵増加シタリト認メ攻撃ヲ停止セシヲ以テ漸ク全滅ヲ免カルル
ヲ得タリ

輻重退却ノ
要例

輻重ノ運動殊ニ退却ニ際シテハ軍紀ノ嚴肅隊伍ノ整正ヲ求メ混亂ヲ未發ニ防遏
スルヲ要ス之カ整頓ニ關シ如何ニ高級指揮官ヲ苦慮セシムルカハ左ノ例ニ依リ
ヲ知ルヘシ

一、千八百六十六年七月一日埃國軍司令官ノ報告ニ曰ク余ハケーニヒグレッツ
ニ至ル道路上ニ於テ軍ノ多大ナル輻重カ到底整頓スルコト能ハサリシコト
ヲ見タリ若シ此ノ如キ狀況ニ在リテ敵ノ有力ナル攻撃ヲ受クルカ若クハ第
一軍團及ザクセン軍ノ未タ整頓ヲ了ラサルニ先チ攻撃ヲ受クルニ至レハ其
ノ災禍實ニ計リ難カリシナラン然レトモ幸ニシテ本日敵ノ壓迫ヲ蒙ラサリ
シヲ以テ余ハ明日軍ヲ休養シ輻重ヲ整頓セシメントス

以上ノ目的ヲ達スル爲メ七月一日ニ於ケル軍命令ニ依リ各軍團ノ輻重ヲ各
其ノ所屬軍團ニ差遣スルコトヲ停止シ全輻重ヲ一縱隊ト爲シケーニヒグレ
ツツニ於ケル混雜ヲ免レ得ヘキ列次ヲ以テ退却セシメ行進中ニ於テ漸ク二
群ニ分離シエルベ河ヲ通過シタル後始メテ之ヲ整頓シ各軍團ノ位置ニ復セ
シメタリ

露國軍司令
官ノ訓示

二、明治三十七年九月十九日露國滿洲軍總司令官ノ訓示ノ概要

我軍ノ奉天ニ退却スルヤ若干部隊ノ輻重ハ分離シテ他隊ノ道路ヲ行進シ軍
隊ノ行進ヲ障碍セシノミナラス其ノ下士卒ハ奉天、鐵嶺間ニ於テ人民ノ物資
ヲ掠奪シ秩序ヲ紊亂セリ抑モ輻重ノ行進ハ往復兩方向ニ運動スルモノナル
ヲ以テ最モ嚴確ニ實行スルニアラサレハ軍隊ニ糧秣ヲ輸送スルコト能ハサ
ルヘシ故ニ道路ノ一側ヲ行進スルコトニ全力ヲ盡シ狹隘ナル場所ニ在テハ
特別ナル監視員ヲ常置シ遭遇スル輻重ヲシテ阻滯ナカラシムヘシ之カ爲メ
如何ナル輻重ヲ軍隊ニ續行セシメ如何ナル方法ヲ以テ補充セシムヘキヤハ
豫メ精密ナル計畫ヲ立ツルヲ要ス

三、那翁ハ輻重ノ行進ヲ整頓スル爲メ多數輻重ノ輻轉スル道路ニハ車輛總長ヲ

置キ上官ノ命令ヲ實行スルノ任ニ當ラシメタリト云フ

將來ノ戰鬪ニ於テハ退却ハ多ク夜間實施セラル、ヲ常トスヘシ而シテ夜間ノ退却ハ假令敵ノ追撃ヲ受ケサル場合ニ於テモ其ノ實行ハ容易ニ非スシテ輜重ノ混亂ヲ生スルコトアルヲ銘心スルヲ要ス

現歐洲戰役ニ於テ千九百十六年一月露軍ノロツヅ放棄シテ退却スルヤ五日夜八時ヨリ行動ヲ開始セリ然ルニ獨軍ハ翌日未明ニ至ル迄之ヲ察知セサリシヲ以テ敵ト巧ニ離脱セシニ拘ラス頗ル混亂錯雜ヲ極メ殊ニロツヅブロウウイチユ大街道上ニ於テハ輜重ハ街道上ニ二列ニ併列シアリ反對方向ヨリモ亦輜重縦列ノ前進シ來ルアリテ互ニ相衝突シ一步モ動ク能ハス此ノ間避難民ヲ乗セタル荷馬車ハ絡繹トシテ街道上ニ群集セシヲ以テ軍隊ノ退却ハ非常ニ困難ニ陥レリ若シ此ノ際獨軍ニシテ巧ニ追撃ヲ行ヒ此ノ道路上ニ步兵ノ一小部隊ニテモ適時現出シテ露軍ノ輜重ニ奇襲ヲ行フカ若クハ退却部隊ノ側面ニ行動スルニ至レハ露軍ハ全ク潰亂ノ狀ヲ呈スルニ至リシナラント云フ

第五章 兵站ノ給養裝備

此ノ裝備ハ軍司令官ノ供用豫備ニシテ其ノ目的ハ作戰地區内ニ於テ費消セシ給

養品ヲ補充スルニアリ然レトモ狀況ニ依リ其ノ若干部ヲ輜重若クハ師團ニ附屬シテ其ノ給養裝備ヲ増加スルコトアルモノトス

給養輜重ニ要スル運搬具ハ各國共ニ主トシテ地方ノ材料ニ依ルヲ多シトス那翁ハ兵站輜重ノ車輛ハ兵站司令官及倉庫官吏ヲシテ之カ徵集ノ任ニ當ラシメ親交アル國ニアリテハ地方官衙ニ要求シ軍需品ヲ遞送シ得ル如ク車輛ヲ配置セシメタリト雖モ當時軍ノ需要ハ寡少ニシテ例セハ千八百九年ストラスブルヒヨリウルムヲ經テアウグスブルヒ及インゴルスタットニ至ル各兵站地ニ於テハ地方車輛八十輛ヲ徵集シ一日行程ヲ隔ツル兵站地ニ毎日四十輛ノ積載セル車輛現今ノ糧食半縦列ノ内容ニ等シヲ發送シ此ノ追送ヲ以テ完全ナリト爲セリ然レトモ兵數ノ増加スルニ從ヒ各戰役ニ於テ兵站輜重ノ不完全ナリシヨリ軍ノ運動ヲ阻碍セシコトヲ實驗セサルモノ殆ント無シトス殊ニ現今ノ如ク大軍ヲ使用スル戰爭ニ在リテハ其ノ輸送關機ヲ完備スルニアラサレハ適時軍ノ補給ヲ完フスルコト能ハサルヘシ故ニ各國共兵站給養輜重ノ主ナルモノハ平時ニ於ケル輜重中隊ヲ幹部トシテ全ク軍隊式ニ編成スルニ至レリ

兵站ニ配屬スヘキ給養輜重ノ大小ハ軍補給ノ要求ト兵站線ノ長短及戰場ニ於ケ

ル物資及交通ノ狀況等ニ依リ決定ス各國ニ於ケル兵站輜重ノ概況ハ左ノ如シ

佛國ノ輜重

獨國

- 一、野戰輜重兵中隊 倉庫車廠縱列及臨時編成ノ兵站車廠縱列等ニ使用ス
- 二、兵站車廠縱列 當該輜重動員ノ際普通六箇ヲ編成シ兵站監部ニ交付シ鐵道若クハ水路ヲ利用シ能ハサル場合ニ於テ給養品ヲ軍ニ追送スルニ任セシム其ノ編制ハ車廠縱列ト同一ト爲シ積載品ヲ完備シテ出發セシムルモノニシテ軍團ノ輜重ヲ増大スヘキ場合ニハ先ツ之ヲ使用ス又常ニ軍ノ野戰製麵包所ニ適時ニ麵包材料ヲ供給スルヲ最モ重要ナル一任務トス
- 三、兵站車廠 集中地及作戰間ニ設置シ鐵道又ハ水路ヲ利用シ能ハサルトキ給養品ヲ軍ニ追送スルニ供ス其ノ最モ重要ナル任務ノ一ハ軍麵包燒縱列ノ原料ヲ速ニ供給スルニアリ
- 四、倉庫車廠縱列 軍集中地ニ於テ編成シ積載品ヲ有セスシテ出發セシメ倉庫ノ補充及移轉並ニ軍隊ニ糧秣ヲ交付スルニ任スルモノニシテ作戰間ハ兵站車廠縱列ト同様ニ使用ス
- 五、倉庫車廠 特命ニヨリ組織スルモノニシテ倉庫車廠縱列ト略ホ同一ノ任務ヲ有ス

務ヲ有ス

- 六、其ノ他 兵站麵包燒縱列新式器具ヲ有スルモノニ縱列、舊式器具ヲ有スルモノニ縱列トス(兵站補助麵包製造所、屠獸廠、街道機關車、軍用貨物自動車、野戰鐵道等)ヲ有シ新ニ給養輜重ヲ編成スル場合ニハ監督ノ意見具申ニ依リ兵站輜重隊長ヲシテ之ヲ編成セシム

埃國ノ輜重

埃國 兵站給養輜重ハ官有輜重車及地方車輛ヨリ組織シ通常鐵道ノ終點ヨリ野戰給養官廨ニ前送シ例外ニハ軍隊ニ直接給養品ヲ交付スルモノニシテ兵站輜重車廠、豫備給養倉庫、作戰間行進路傍ニ設置セル行進倉庫、兵站倉庫、倉營倉庫、集中地内ノ倉庫等之ニ屬ス豫備麵包製造所、豫備屠獸廠及豫備給養部隊(野戰給養輜重ノ缺員補充及追送實施等)ニ使用スヲ有ス

佛國

- 一、補助縱列 各軍團管區ニ於テ徵發セル車輛ト輜重兵四箇中隊ノ駕馬ヲ以テ四縱列(二縱列ハ二頭曳車輛百八十トス)ヲ編成スルモノニシテ一縱列ハ軍團一日分ノ糧秣ヲ積載ス但シ最初ノ徵發車輛ハ二箇縱列ニ要スルモノニ止メ他ノ二箇縱列ハ軍團長必要ニ應シ陸軍大臣ニ請求シ大臣ノ特命ニ

佛國ノ輜重

ヨリ編成スルモノトス

此ノ縦列ハ永久ニ兵站末地ニ附屬セシメ其ノ輸送セル糧秣及材料ヲ軍糧食縦列ニ交付スルヲ原則トス若シ監督勤務ニ附屬セシムルトキハ其ノ輸送糧秣ハ各兵站末地ノ糧食勤務經理將校ニ於テ受領シ補給ノ爲メ軍司令官ノ指定セル觸接點ニ至ルノ運動ハ兵站末地司令官ニ於テ該司令部副監督ト協議ノ上之ヲ決定スルモノトス

二、臨時縦列 組織編成ハ兵站監ニ於テ決定ス、兵站司令官ハ之ニ基キ其ノ管區内又ハ兵站監ノ指定セル地域内ニ於テ運搬材料ヲ徵集シ兵站司令部附屬重隊ノ人員ヲ以テ編成ス(通常馬車二十五輛ニ對シ伍長一、同五十輛ニ對シ下士一、同二百輛ニ對シ將校一ヲ附スルヲ原則トス)

三、自動車縦列 内地若クハ作戰地帯ニ於テ徵集シタル四輪自動車ヲ以テ編成シ通常之ヲ兵站基地ニ備ヘ兵站司令部員中ノ將校ヲ以テ指導セシメ兵站起點ヨリ三乃至四ノ兵站地ヲ往復セシム

四、以上ノ外麵包製造所及屠獸廠等ヲ有ス

露國 軍輸送隊ハ七隊ニシテ其ノ任務ハ兵站末地ヨリ野戰倉庫迄又ハ倉庫間

ノ糧秣其ノ他ノ軍需品並ニ戰地ヨリノ不用品及傷病兵ノ輸送ニ任スルモノトス

軍輸送隊ハ兵站輸送課長ノ管理ニ屬シ之ヲ後方地區ニ配置スルヲ例トスルモ其ノ一部ヲ軍ニ屬セシメ又軍ハ之ヲ軍團及師團ニ屬セシムルヲ得ルモノトス

軍輸送隊ハ其ノ性質上ヨリ車輛及駄獸ノ二種ニ分チ編成上ヨリ陸軍輸送隊、雇用輸送隊ノ二種ニ分ツ陸軍輸送隊ハ動員ノ際配屬スルモ雇用輸送隊ハ戰時輸送力不足ノ場合正面軍交通部長ノ許可ヲ得テ編成スルモノトス

車輛ヨリ成ル軍輸送隊ハ車輛四百二十輛有効積載量四千四百十四布度極東派遣軍隊ハ車輛五百十二輛ニシテ積載量五千二百二十布度トス(駄馬輸送隊ハ駄馬三百六十二頭ニシテ積載量一千七百二十三布度半トス(極東派遣軍隊ノモノハ駄馬五百頭ニシテ各駄馬ノ積載量ハ四布度半及五布度トス)

雇用輸送隊ノ車輛若クハ駄馬ハ軍夫附ニテ住民ヨリ徵集シ輸卒ノ代リニ軍夫ヲ使役ス但シ駱駝隊ニ在テハ下級下士ノ代リニ住民中ヨリ團長ヲ任命シ其ノ給養及給與品ハ總テ官給トス

請負ヲ以テ雇用輸送隊ヲ編成スルトキハ其ノ給養ハ當初ハ雇用賃銀中ニ算入シ契約セル一定ノ時期ヲ經過シタル後其ノ職ニ忠實ナルヲ認メシ時ノミ之ヲ官給スルモノトス

英國輻重

英國 豫備糧秣廠 野戰部隊ノ全人馬ニ對スル携帶糧秣各一日分ヲ積載スル輾馬縱列二箇ヲ有ス此ノ積載品ハ日常ノ使用ニ供セス全ク野戰軍ノ行動ニ要スル非常用豫備糧秣トス

兵站輻重ノ積載法

兵站輻重ノ積載量ハ概ネ野戰部隊ニ屬スルモノト同一ニシ其ノ受授ヲ合致セシムル如ク編制スルヲ常トスト雖トモ行動間ニ於テ直接軍團若クハ師團ノ糧食縱列ヲ補充スル場合ノ外ハ軍ニ完全ナル定量ヲ補充スルカ又ハ其ノ不足品ノミヲ追送スル爲メ積載區分ノ變更ヲ行フ場合ヲ多シトス

第六章 貨物自動車

第一節 要旨

貨物自動車ハ其ノ制式種々アリト雖トモ一般ニ速力ト輸送力トハ大ニ動物ノ力ニ優リ之ヲ輾馬縱列ニ比スレハ其ノ最大利益ハ左ノ如シ

貨物自動車ノ利益

- 一、輾馬縱列ニ比スレハ行進力ヲ二倍以上ニ増加スルコトヲ得
 - 二、輾馬縱列ノ車輛ヲ著シク減少スルコトヲ得
 - 三、前二項ニ依リ軍隊ハ運動ノ自由ト指揮ノ容易ナル利益ヲ受クルノミナラス多數ノ馬匹ト兵卒トヲ節約スルコトヲ得
 - 四、給養上ヨリハ其ノ速力ト積載力トヲ利用シテ遠隔シタル地方ヨリ物資ヲ徵集シ且給養品ヲ各地ニ散在シテ集積スルノ必要ナキヲ以テ倉庫ノ數ト業務員トヲ減少スルコトヲ得ルノ利アリ
- 以上ノ外貨物自動車ノ編成及保持ニ要スル經費モ亦之ヲ減少シ得ルコト左ノ如シト云フ

貨物自動車

輻重車

比。

積載量	一噸半(四百貫)	〇噸一八八(五十貫)	八倍
一時間ノ速度	八吉米(六吉米)	四吉米	二倍(一倍半)
一日平均行程	六十四吉米(四十八吉米)	二十八吉米	二倍七分二(一倍七分五)
一日間運搬行程	九十六噸吉米(七十二噸吉米)	五、二六噸吉米	十八倍(十四倍)
一時費	五、四三〇円	七、一七二(五五七八)減	一、七四二(一四八)

障礙超越自
動車

一日間ノ維持費 {揮發油 二六(二五)
石油 二二(二〇)}

(三七)
(二九)

減 六二六

一一(四)
一五(九)

括弧内ハ自動車一時間ノ速度六吉米ノ場合ニ應スルモノニシテ經費ハ同一
運搬行程積載量ト行程トノ相乘積ヲ得ヘキ輻重車ト比較シタルモノトス
然レトモ自動車ノ缺點タルヤ道路ノ影響ヲ受クルコト大ニシテ路上細溝ヲ存ス
ルモ直ニ其ノ運動ヲ妨碍セラシムルニアリ故ニ之カ改良ニ着意シ千九百十五年二
月頃ニ於テ伸縮自在ナル車軸匣ヲ使用シ全速力ヲ以テセハ三米五〇マテノ壕ヲ
超過シ得ル如ク自動車製造ニ成功ノ一歩ヲ進メタリト云フ

伸縮自在ナル車軸匣トハ前後ニ各一對ノ補助車軸匣ヲ裝シ(其ノ兩端ニ小車輪
ヲ有ス)該車軸匣ハ常ニ本車輪ニ近ク收容セラシムルヲ以テ小車輪ハ平素地上ニ
觸ルルコトナシト雖モ壕通過ニ際シテハ槓杆作用ニヨリ前後ニ突出ス此ノ際
補助車輪ト之ニ近接セル大車輪間ノ距離三米六〇トナル而シテ障礙物通過ニ
際シテ車體ハ八個ノ支點ヲ有シ内六個ハ常ニ地上ニ接シ壕ヲ通過スルヤ補助
車輪ハ直ニ收容セラシムルモノトス

給養輻重ニ
應用

給養輻重トシテ貨物自動車ハ各國共生肉輸送及騎兵集團ノ輻重ニ應用シ又ハ軍
ノ推進力ト機動性ヲ増加スル爲メ兵站ト師團輻重トノ連鎖若クハ兵站地内ニ於

自動車ノ準
備

ケル輸送ニ使用スルモノトス之カ爲メ從來鐵道ノ終末點ヨリ軍ニ糧秣ヲ補給ス
ルコトハ困難ナル問題ト爲セシモ自動車ノ發達ニ依リ軍ニ對スル所要ノ糧秣ハ
無數ノ輓馬ヲ繋駕セル縱列ヲ跟隨セシムルコトナク比較的少數ナル貨物自動車
ヲ使用シテ其ノ目的ヲ達シ得ルニ至レリ

第二節 自動車ノ平時準備

戰時ニ必要ナル自動車ヲ準備スルノ方法ニ二アリ

一、平時ニ於テ戰時所要ノ自動車ヲ保管シ置クコト

二、戰時ニ際シ政府ノ使用ニ供スヘキコトヲ條件トシ適當ナル種類ノ自動車ヲ
所有スル者ニ補助金ヲ交付シテ民間ニ自動車ヲ維持セシムルコト

以上ノ方法中各國其平時保管ノ車輛數ヲ最少限ニ止メ主トシテ第二ノ方法ヲ採
用ス之レ自動車ハ航空機ト異ナリ軍用ノ必要上ヨリ發達シタルモノニ非スシテ
商業ノ發達ニ伴ヒ先ツ民間ニ起リタルモノナルヲ以テ平時陸軍ニ於テハ之カ用
途少ナキト多數ノ自動車ヲ有スルコトハ購買價格ノ多額ヲ要スルノミナラス之
カ維持困難ニシテ補助金制度ヲ最モ經濟トシ且目的ヲ達成スルコト容易ナルニ
依ル然レトモ民間ニ於ケル製造會社ハ其ノ數多クシテ各會社各特有ノ構造ヲ有

補助金制度

補助金ノ多寡

スル爲メ速力積載量使用ノ方法等ヲ異ニシ戰時ニ於ケル運轉補給及修理ニ非常ナル煩雜ヲ生スルノ弊害アルヲ以テ補助金ヲ交付シテ制式ヲ一定シ成ルヘク其ノ種類ヲ減少シテ同一構造ニ爲スヲ努ムルヲ要ス

補助金ノ多寡ハ其ノ國ノ状態ニヨリ大差アリ例セハ左ノ如シ

- 一、英國ハ平素多數ノ商業用自動車ヲ使用セルヲ以テ軍事上ニ於ケル缺點ヲ補修セシムル爲メ少額ノ補助金ヲ交付スル如ク規定ス
- 二、奧國ハ國境ノ山地ニ適スルモノヲ製造セシムルヲ必要トセシノミナラス當時貨物自動車ノ製造少ナカリシヲ以テ高價ノ補助金ヲ交付ス
- 三、獨國ハ補助金制度ヲ實施シタル當時國內ニ於ケル自動車數ハ殆ント數フルニ足ラサリシヲ以テ平素ニ於ケル民間ノ使用ト工業ノ振興ヲ促ス目的ヲ以テ各國ニ比シ最モ高價ナル補助金ヲ與フル如ク規定セリ

以上ノ如クニシテ各國カ自動車獎勵及維持等ノ爲メ千九百十三年迄ニ支出シタル金額ハ左ノ如シト云フ(單位千圓)

各國ノ維持獎勵金

獨 國	奧 國	佛 國	露 國
獎勵金 大隊新設費	獎勵金	獎勵金	自動車隊新設及維持費
千九百十年 四八〇(千九百八年三八四、同九年四八〇)	一一七	一七五、五	五、三

千九百十一年	四八〇	一、〇〇六	一五四	三九〇	一七五、五	二五	五、三
千九百十二年	五四〇	・	七七	一、二〇〇	一七五、五	九二	五、三
千九百十三年	五四〇	・	七七	一、五〇〇	一七五、五	九二	五、三
計	二、九〇四	一、〇〇六	三〇八	三、二〇七	五二六、五	一、七八四	二二

歐洲各國ニ於ケル軍用貨物自動車ノ獎勵及準備ノ狀況ハ左ノ如シ

佛國 千九百十年ヨリ年々所定ノ金額ヲ使用者ニ交付ス其ノ獎勵車數ハ豫算額ノ多少ニ依リ年々異ナルモ概ネ一百輛ヲ下ラス現戰役開始前ニハ保護ヲ與ヘタル自動車千二百輛ヲ有シ其ノ他巴里乘合自動車會社所有ノ全數ハ戰時之ヲ徵用スルノ契約ヲ締結ス

獨國 千九百八年ヨリ貨物牽引自動車(附屬貨物自動車一輛ヲ牽引スルモノ)

ノ單一制式ヲ獎勵ス該自動車ハ道路惡キトキハ牽引車ノミヲ運行シ(附屬車ハ轆木及横木ヲ携行シ要スレハ轆車ニ依リ轆曳セシムルコトヲ得道路良好ナルトキハ附屬車ヲ附スルノ利益アリテ試驗ノ結果最モ軍用ニ適スルモノト認定セシヲ以テ民間ニ此ノ種自動車ノ普及ヲ計リ保護金ヲ與ヘテ之カ製造ヲ獎勵セシニ依リ漸次他ノ自動車ヲ壓倒シ獎勵金ヲ受ケシ車輛ハ千九

獨國自動車ノ特徴

百八年ニハ百五十八列車、千九百九年ニハ百七十六列車ニシテ爾後逐年増加シ、千九百十三年ニ於テハ總計千二百列車ヲ算シ、現歐洲戰役開始當時ニハ約千五百列車ヲ有シタリト云フ

埃國 千九百十一年獨國ト殆ント同一ナル規則ヲ發布シ、該國ヨリ稍輕少ナル牽引貨物自動車ヲ獎勵シ、開戰前ニハ約千四百輛ヲ有セシト云フ

英國 千九百十一年積載量三噸及一噸半騎兵等ノ如キ行動敏活ナル部隊ノ後方ニ用ユヲ有スル輕重二種ノ單獨貨物自動車ヲ採用シ、同十二年補助金下附ノ制度ヲ決定シ、開戰前ニハ之カ獎勵金ヲ受ケタルモノ二千輛ニ達セリト云フ

露國 道路少ナク且不良ニシテ都會ノ道路ト雖モ首府及莫斯科ノ外ハ凸凹甚シキニ依リ貨物自動車ノ發展頗ル遅々タルノ状態ナルヲ以テ未タ補助金制度ヲ實施スルニ至ラスシテ開戰トナリシモ千九百十二年度及十三年度ニ於テハ各々貨物自動車三百輛宛ヲ購入シ、同十四年度ニ於テハ四百輛購入ノ豫算ヲ可決セリト云フ

獨埃ノ發達

獨埃兩國ハ自動車製造ニ關シ高額ノ補助金ヲ以テ大ニ獎勵シタリシ結果、其ノ製

造力ハ大ニ増加シ、左ノ如ク佛、露、英、白ノ諸國ニ輸出スルノ狀況ニ至リシト云フ

獨 國	千九百十二年ノ輸出高	乗用 七、九五三	運搬用 六九五
埃 國	千九百十三年ノ輸出高	三七八	二三

自動車補助金制度ハ我國ニ於テモ目下ノ急務ナリ(松崎)
歐洲諸國ニ於テハ平時ヨリ民有自動車ニ多額ノ補助金ヲ支給シ、其製造ヲ獎勵スルト同時ニ之カ制式ナリニ以テ有時ノ際ニ便ナラシムル本邦ニ於テモ早ク此ノ境遇ニ達センコトヲ望ム(田中)

皇國ノ狀況

皇國ニ於テモ大正七年二月自動車保護法案ヲ議會ニ提出シ、目下審議中ノ運ヒニ至リシコトハ誠ニ國家ノ爲メ慶スヘキコトニテ速ニ議決ヲ望ムコト切ナリトス

第三節 各國ニ於ケル自動車縱列

第一 獨國

戰時ニ於ケル自動車ノ利用ニ就テハ絶エス研究ヲ怠ラサリシ所ニシテ最近千九百十二年ニ於ケル皇帝演習ニハ自動車三百五十臺以上ヲ參加セシメ、自動車縱列ヲ編成シテ各騎兵師團ニ配屬シ、該縱列ヲシテ直接給養列車ト騎兵師團糧食縱列ヲ編成セス間トノ補給ノ任ニ當ラシメ、軍隊ノ有スル一日分ノ携帶口糧及大行李ノ糧秣ト相俟テ給養ヲ確實ナラシメタリ、此ノ經驗ニ基キ千九百十三年野戰自動

獨國自動車ノ演習

自動車隊勤務令

自動車縦列

騎兵ニ自動車ヲ付スル

車勤務令草案ヲ發布シ戰時使用スヘキ自動車隊ノ種類用法及技術上ニ關スル大體ノ方針ヲ示セリ該令ニ依レハ陸軍ニ於テ使用スル自動車ノ種類ハ七種ニシテ内給養品輸送ニ使用スルモノハ貨物牽引自動車、重自動車、及縦列用自動車、三種ニシテ其ノ縦列用自動車ノ編成及性能ハ左ノ如シ

一、騎兵自動車縦列 騎兵師團長ニ隸シ給養品若ハ彈藥ヲ倉庫或ハ所屬軍團ノ彈藥所等ニ輸送スルニ任ス一車ノ積載量ハ三噸ニシテ其ノ平均行程ハ左ノ如シ(一日平均速度ハ積載卸下ノ時間ヲ除キ一日十時間ヲ作業スルモノトス)

一時間ノ速度	平地	波狀地	山地
一日平均速度	平地	波狀地	山地
	一六乃至一八吉米	一四乃至一六吉米	一二乃至一四吉米
	一一五	一〇〇	七五

騎兵ニ自動車縦列ヲ屬セシモ全然之ヲ以テ輓馬縦列ニ代用スルノ意ニ非ス何トナレハ自動車ハ地形ニ依リ必シモ騎兵ト行動ヲ共ニスルコト能ハサレハナリ然レトモ騎兵團ノ作戰ハ通常大ナル街道ヲ基準トシテ其ノ行動ヲ律セラルルヲ以テ自動車ハ近ク其主力ノ後方ニ到ルヲ得ヘク從テ各隊ト自動車トノ間ハ輕快ナル大行李ノ媒介ニ依レハ給養ヲ容易ナラシムルハ明ナリト云フ

二、兵站自動車縦列 各種ノ軍需品特ニ給養品及彈藥ヲ追送スルノ目的ニ使用シ一縦列ハ積載量六噸ノ自動車九輛ヨリ成リ一箇ノ車廠縦列若ハ二箇ノ糧食縦列又ハ二箇ノ歩兵或ハ砲兵彈藥縦列ト同シキ積載力ヲ有シ之ヲ三箇宛ノ三小隊ニ分チ他ニ豫備車輛及修理工作車ヲ有ス其ノ平均行程ハ左ノ如ク概ネ糧食縦列ノ三倍トス故ニ一縦列ノ効力ハ糧食縦列六箇ニ相當ス

一時間ノ速度	平地	波狀地	山地
一日平均速度	平地	波狀地	山地
	一一乃至一三吉米	九乃至一〇吉米	七乃至八吉米
	一〇〇	八〇	六〇

運搬地區ハ爲シ得ル限リ遠ク作戰地域内ニ使用シ例外ノ場合ニハ騎兵師團ノ給養品及彈藥ノ追送並ニ軍團又ハ獨立師團ニ於ケル縦列ノ追送ヲ補助スル爲メ一時使用スルコトアリトス

兵站自動車縦列ヲ各軍ニ配屬スルノ方法ハ戰時編成ヲ以テ之ヲ規定ス
三、輕貨物自動車 積載量一噸半乃至二噸ニシテ隊伍ヲ編成セス最モ急ヲ要スル場合ニ使用スルモノ、如ク野戰麵包燒縦列ニ麵包材料ヲ輸送スル目的ヲ以テ兵站經理部長ニ附屬セラレ要スルトキハ該材料ヲ携行スル爲メ一時麵

包燒縱列ニ配屬スルコトアルモノトス其ノ平均行程ハ左ノ如シ

平地 波狀地 山地

一時間ノ速度 三〇乃至三五吉米 二〇乃至二五吉米 一五乃至二〇吉米

一日平均速度 一七五 一二五 一〇〇

自動列車

貨物牽引自動列車 主トシ糧秣ノ追送ニ任スルモノニシテ其ノ積載量ハ牽引車四噸附屬車二噸ニシテ平均行程ハ左ノ如シ

平地 波狀地 山地

一時間ノ速度 一三乃至一四吉米 一〇乃至一一吉米 八乃至一〇吉米

一日平均速度 一〇〇 八〇 六〇

以上ノ積載量及速力ハ最小限ヲ示スモノニシテ發動機ノ改善ニ伴ヒ漸次之ヲ增加スト云フ

重自動貨車

重自動貨車ハ分割スヘカラサル大重量物ヲ運搬スル爲メ使用スルモノニシテ百五十乃至二百馬力ノ貨物牽引自動車ヲ採用シ土質柔軟ナル地方ニ於ケル重量物運搬ノ爲ニハ車輪ニ履帶ヲ有スル自動車ヲ使用スト云フ

自動列車ノ糧秣補給力

現戰役開始當時ニ現在セシ貨物牽引自動列車數ハ既ニ述ヘタル如ク一千五百列

縱列ノ編成
シ得ル數

自動車隊長

車ナリト云フ然ルニ戰時兵額一軍團一日分ノ糧秣ハ五十四噸ナルヲ以テ之ヲ輸送スルニハ九自動列車ヲ要ス之ニ一列車ノ豫備ヲ加フルトキハ十列車トス今軍團ト倉庫トノ距離百吉米ニシテ軍ニ機動ノ自由ヲ得セシムルト倉庫ニ豫備糧秣ヲ集積スルトノ必要ニ依リ二日分ノ糧秣ヲ前送スルトセハ二十列車ヲ要ス故ニ千五百列車ノ内一千列車ヲ糧秣輸送ノミニ使用スルトセハ五十軍團ノ糧秣補給ヲ爲スコトヲ得

以上ノ貨物牽引自動列車ノ外千九百十三年ニ於テ官有自動貨車四百二十五輛ヲ有セシニ依リ之ヲ以テ九車輛ヨリ成ル自動車縱列四十七箇ヲ編成スルトセハ平時ノ軍團數二十五箇ニ對シ少クモ各々一箇以上ヲ配當シ得ルノ狀況ニアリシト云フ

兵站自動車隊ノ勤務ヲ統轄スル爲ニハ自動車隊長ヲ置ク該官ハ兵站監ノ指揮命令ニ從ヒ兵站自動車縱列兵站自動車廠及該廠ヨリ設置スヘキ水槽所ノ業務ヲ監督スルモノトス

自動車隊長ハ其ノ使用ノ區分ニ應シ兵站監督又ハ兵站彈藥係長ト共同シテ兵站自動車縱列ノ運動ニ關スル命令及兵站自動車廠ノ移動ニ關スル諸規定ヲ計畫シ

佛國平時ノ
自動車

且使用スヘキ道路橋梁等ヲ偵察セシムルモノトス

第一 佛 國

平時陸軍官憲ニ於ケル自動車ハ要塞ニ於ケル運搬、運轉法ノ慣熟及製造者獎勵ノ目的等ニ必要ナル小數ヲ購入シ之ヲ經理部、衛生部及砲、工、輜重兵ニ於ケル諸勤務部ノ運搬及試験並ニ軍團及騎兵師團等ニ要スル糧食運搬ニ使用スルニ過キサレヲ以テ戰時必要ノ自動車ハ民間ノモノヲ徵用シテ之ニ充當ス

一、生肉輸送自動車小隊

- 1、各軍團ニ二隊、各獨立步兵師團ニ一隊トス各小隊ノ貨物自動車數ハ八輛ニシテ生肉一萬六千吉瓦即チ約四萬人ニ對スル一日分ヲ運搬スルコトヲ得但シ三個師團ヨリ成ル軍團ノ貨車總數ハ二十輛トス
 - 2、各騎兵師團ニ一隊トシ小隊ノ貨物自動車數ハ四輛ニシテ生肉八千吉瓦(約二萬人ノ一日分)ヲ運搬シ得ルモノトス
- 軍團ニ屬スル自動車貨車小隊ハ軍團輜重ニ在ル家畜群ノ所在地ヨリ生肉ヲ軍隊ニ補給スルヲ任トス騎兵師團ニ屬スルモノハ輕自動車縱列ト軍

自動車隊ノ
區分
生肉自動車

糧秣補給自
動貨車

隊トノ連絡ニ任スルモノトス

現歐洲戰役ニ使用シアル自動車ハ巴里乘合自動車ヲ徵發シテ其ノ内部ヲ改修シタルモノニシテ(乘合自動車ハ約三十人乘ニシテ其ノ椅子ヲ取去リ多少ノ改造ヲ施シ生肉ヲ積込ムト云フ)近時米國其ノ他ヨリ冷藏肉ヲ輸入シ冷藏車ヲ以テ鐵道輸送ヲ爲シ此ノ小隊ニ依リ軍隊ニ補給セラレアルモ運搬迅速ナルヲ以テ味ヲ變セス大ニ賞用セラレアリト云フ

二、糧秣補給ノ爲メ軍ニ屬スルモノ左ノ如シ

- 1、重自動車縱列 積載量二噸總重量五噸以上ノ自動車ヲ以テ編成シ一縱列ハ本部及四小隊、小隊ハ乘用自動車一、自動貨車十四乃至十九輛ヨリ成ルモノニシテ兵站線上鐵道ヲ利用シ得ルコト少ナキ地區ニ在リテ補給停車場或ハ補給中央廠ト部隊トノ間ニ於ケル補給勤務ニ使用シ時トシテ彈藥若クハ糧食縱列ニ代用ス一縱列ノ運搬力ハ約軍團一日分ノ糧秣(約百二十五噸)ヲ一日間ニ百二十吉米ノ地點ニ輸送シ得ルモノトス
- 2、輕自動車縱列 積載量約千二百吉瓦ノ自動車ヲ以テ編成シ一縱列ハ本部及二小隊、小隊ハ乘用自動車一、貨物自動車九乃至十四輛ヨリ成ルモノニ

シテ主トシテ騎兵師團ト軍輜重トノ中間ニ於ケル補給勤務ニ任ス若シ騎兵師團遠ク軍ト離隔スルトキハ之ニ跟随シテ地方物資ノ輸送ニ任ス故ニ騎兵師團ヲ有セサル軍ニハ配屬セラレサルヲ常トス一縱列ノ運搬力ハ三箇旅團編制ノ騎兵師團一日分ノ糧秣(三十噸乃至三十五噸)ヲ一日間ニ約百六十吉米緊急ノ場合ニハ二百吉米ノ地點ニ輸送シ得ルモノトス

3、豫備輕自動貨車縱列 徵發シタル輕自動貨車ニ過剩アルトキ編成スルモノニシテ其ノ編成ハ前項ニ同シ

以上ノ諸縱列ハ總兵站監ノ管理ニ屬スルモノニシテ該監ハ總司令官ノ意圖ニ基キ必要ニ應シ之ヲ各軍ニ配屬ス軍ニ配屬セラレタルモノハ軍兵站監ノ指揮下ニアリテ其ノ任務ニ服スルモノトス

第三 英國

英國ノ自動車縱列ハ野戰師團用(三噸積糧食車二十九輛、一噸半積馬糧車十一輛其他ヨリ成ルモノトス)騎兵師團用(主トシテ四噸半積及軍直屬部隊用ト爲シ此等團隊ニ各一縱列ヲ配當シ野戰師團及軍直屬部隊用ハ其ノ人馬ニ對スル一日分、騎兵師團用ハ二日分ノ尋常糧秣ヲ輸送シ得ルモノトス

英國

自動車縱列ハ管兵站監ノ隸下ニ屬シ當該輜重ト鐵道端末點トノ間ノ連絡ニ任セシムルモノトス

第四 露國

露國自動車中隊

露國自動車中隊ハ貨物自動車百十輛外ニ幹部乗用自動車五輛移動工場自動車四輛、發電車、附屬車等ヲ有スニシテ之ヲ四小隊ニ區分シ各軍ニ一乃至數中隊ヲ配當シ千九百十七年ノ初ニハ二十四箇中隊ヲ有セシト云フ

自動車中隊ハ軍兵站補給部長ノ指揮ニ屬シ兵器、彈藥、器具材料ノ輸送ニ任スルモ其ノ數僅少ナルヲ以テ(本章第四節第二參照未タ定規ノ糧秣輸送ニ使用セスト云フ)

自動貨車ノ構造

自動貨車ノ積載量ハ七十五布度(約一噸)トス時トシテ九十布度迄ハ積載スルヲ得(及百五十布度トス然レトモ外國ヨリ購入シタルモノハ三噸、二噸、一噸半積等ヲ混シ其ノ速度ニ關シテハ第十二軍兵站ニ於テハ一晝夜夏季ハ二百露里(一露里ハ約一吉米ニ相當ス)冬季ハ百五十露里以上ヲ運轉セサル如ク制限セシト云フ)

第四節 現歐洲戰役ニ於ケル貨物自動車利用ノ狀況

歐洲各國カ貨物自動車ヲ以テ糧秣及彈藥ノ補給ヲ爲ス如ク計畫シ之カ製造ヲ保護獎勵セシコトハ既ニ述ヘタルカ如シ然レトモ其ノ準備ニハ限リアリテ兵力ノ激増ニ伴フ需要ヲ充タスコト能ハサリシヲ以テ開戦ニ伴ヒ各國共自國ノ製造ト輸入トヲ獎勵シ且平時補助金ヲ與ヘタル制式ト否トヲ問ハス之ヲ徵集利用セシヲ以テ貨物自動車ノ使用數ハ開戦當初ニ比シ著シク増加セシ概況左ノ如シ

開 戰 當 初	英 國	佛 國	露 國	伊 國	獨 國	埃 國
千九百十七年六月	二、〇〇〇	一、二〇〇	六〇〇	五〇〇	一、九二五	一、四〇〇
	一五、〇〇〇	二五、〇〇〇	二〇、〇〇〇	五、〇〇〇	二五、〇〇〇	三、〇〇〇

多數ニ一驚ヲ吃スルト同時ニ我邦ノ獎勵ヲ感ス(限)

今回歐洲大戰ニ際シ獨、佛二國ノ使用セシ自動車ノ數甚タ多ク軍隊ノ集散上ニ及ホス影響マテ尙多大ナルモノアリト云フ將來物資ノ運搬上大ナル關係アルハ云フヲ俟タサルヘシ其他開戦ノ始メニ於ケル巴里包圍計畫ヲ畫餅ニ歸セシメシ自動車ノ効力ノ如キ枚舉ニ違アラサルニ於テナヤ(松崎)

以上ノ如ク各國共貨物自動車ノ効力ヲ認メ現戰役ニ於テ盛ニ之ヲ利用セシト雖モ西方戰場ニ於テハ千九百十四年十一月十六、七日頃ヨリ氣候劇變シテ暴風雪トナリシモ攝氏一度乃至四度(最寒ノトキハ零度トナリシト云フ)ニシテ作戦ヲ中止セシムル如キ寒氣ニ非サリシモ道路不良ノ爲メ自動車ノ運轉ヲ中止シ追送補給

ヲ困難ナラシメタルヲ以テ遂ニ作戦ヲ中止スルニ至レリト云フ之ニ依リテ見レハ貨物自動車ノ如キ精巧ナル追送機關ハ絶天ノ効力アルト共ニ一方ニハ天候其ノ他ノ障碍ニ依リ至大ナル影響ヲ受ケテ作戦ヲ拘束スルコトアルヲ顧慮セサルヘカラス

第一 貨物自動車ノ製造及輸入

兵力ノ激増ニ伴ヒ貨物自動車ノ需要ハ各國共頗ル多大ナリシヲ以テ三噸乃至五噸積貨物自動車ノ製造工場ハ晝夜之カ製造ニ從事セシモ其ノ需要ニ應スルコト能ハサリシニ依リ乗用車製造工場モ貨物自動車製造ニ轉業シ又從來ノ荷馬車ハ馬匹ヲ徵發セラレタル結果之ヲ使用シ能ハサルニ至リシヲ以テ之カ車框ヲ乗用自動車ノ車臺ニ附シテ貨物運搬ニ使用スルモノ多キニ至リシト云フ

自動貨車ノ需要前項ノ如キヲ以テ交戦國ニ於テ之カ輸入ニ努力シツツアルコトハ左ノ例ニ依リテ之ヲ知ルヲ得ヘシ

一、千九百十四年十一月中ニ於テ米國ヨリ輸出シタル自動車ノ總數ハ一千六百十八臺ニシテ之ヲ前年ノ同月ニ比較セハ左ノ如ク著シク貨物用ヲ増加シテ乗用ヲ減少セリ

	貨物用	乗用	合計
千九百十三年十一月ノ輸出	六四三	一、七〇七	一、七七一
千九百十四年十一月ノ輸出	八四二	七七六	一、六一八
以上ノ輸出ハ左ノ如ク主トシテ佛國及英國ニ供給シタルモノナリト云フ	佛國 六九六	英國 四〇四	
二、千九百十五年ニ於テ米國ヨリ自動車ヲ輸出シタル狀況ヲ前年ニ比較セハ左ノ如シ	貨物用	乗用	部分品
千九百十四年	七八四	二八、三〇六	六六二
千九百十五年	一三、九九六	二三、八八〇	七八五

以上ノ内主要ナル輸出國ハ左ノ如シ

	英國	佛國	露國
貨物用	五、三二〇	四、九九〇	二、八四六
乗用	八、六二三	一	一、四五八

第二 各國ニ於ケル貨物自動車徵用ノ狀況

貨物自動車
ノ徵用

佛 國

戰時民間ノ自動車ヲ徵用スルノ方法ハ國ニ依リ多少其ノ狀況ヲ異ニス

佛國 民間ノ自動車ハ制式ニ著シキ差異アリテ各軍團管區ニ於テ等質ナル自動車隊ヲ編成スルコト困難ナリシヲ以テ左ノ如ク徵用セシト云フ

- 一、徵發セル自動車ハ一旦若干ノ編成地ニ集中シ此ノ地ニ於テ等質ナル自動車隊ヲ編成スルモノトス里昂ノ如キハ此ノ附近ニ於ケル自動車隊編成地ニシテ千九百十四年十月中旬ニ至ル迄ニ於テ既ニ五十五隊(一隊ハ積載量三噸半ヲ有スル運搬車二十一輛作業車一輛及人員用車輛ヨリ成ルト云フ)ヲ編成シ尙其ノ後事業ヲ繼續シテ概ネ每週一隊半ヲ編成シタリト云フ
- 二、巴里乗合自動車會社ヨリ約三千輛ノ乗合自動車ヲ動員令ト共ニ徵發シ各步兵聯隊ニ於ケル肉運搬車トシテ使用セシム

以上ノ如クニシテ千九百十五年七月頃ニ於テ使用シアル自動車ハ其ノ數ニ萬ニ達シ應用ノ範圍頗ル大ナリシニ拘ラス之ニ關スル災害ハ比較的少ナカリシモ總司令官ハ災害ヲ豫防スル爲メ左ノ件ヲ令達セシト云フ

- 1、大速度ハ絶對ニ必要ナル場合ニ於テ將校身ヲ以テ責ニ任スルニアラサレハ用ユヘカラス

災害豫防

2、村落内ニ於ケル道路ノ屈曲部、不良若クハ狹小ナル道路上及道路交又點
分岐點ニ於テハ緩徐ナル速度ヲ以テ運轉スヘシ

露國 平時未タ自動車ニ補助金ヲ交附シ有時ノ際之ヲ徵用スヘキコトヲ規定
セサリシヲ以テ開戦ニ伴ヒ八月二日左ノ要旨ノ徵發令ヲ發布セリ

一、全戰役期間ニ亘リ各自私有ノ自動車、乗客用、貨物及聯結車輛、自動自轉車ハ
例外ノ規定アルモノノ外之ヲ軍事上ノ目的ノ爲メ徵發ス(露國ニ居住セル
獨、埃國人ノ自動車モ亦獨國カ露國人ノ自動車ヲ徵發セシトノ理由ニ依リ
同様ニ一切徵發スルモノト爲セリ)

二、自動車ノ徵發ハ主トシテ内務省之ニ當リ各縣廳ニ於テ調査及検査ニ任ス
三、自動車所有者ハ陸軍省ノ指定セル地點ニ送致シ其ノ使用シ得ヘキモノハ
之ヲ官有ニ屬セシム之カ爲メ所有者ニハ物品受領委員會ニ於テ決定セル
代價ヲ仕拂フモノトス

然レトモ當時自動車發達ノ遅々タリシニ依リ露都ニ於テ徵發シ得タル貨物自
動車ハ僅ニ百輛ニ達セス故ニ開戦ト共ニ編成セシ自動車隊ハ僅ニ五箇中隊ニ
過キス之ヲ各軍ニ一箇中隊時トシテ二箇中隊ヲ配當セシモ其ノ後野戰軍ノ増

加ニ伴ヒ英、米二國ヨリ多數ノ自動車ヲ購入シ千九百十五年十月ニハ十六箇中
隊貨物自動車千八百輛ニ同十二月ニハ十八箇中隊三千輛ニ達セシト云フ
英國 平時ノ補助金制度ニ依ル自動車ノミヲ以テハ軍ノ擴張ニ應スルコト能
ハサルヲ以テ合格ノ制規ヲ寬ニシ(積載量ハ依然一噸半及三噸トス)廣ク民間所
有ノモノヲ購買シタルノミナラス新ニ多數ヲ自國內及北米ニ注文シ單ニ彈藥
及糧食縱列ノ目的ニ使用スルモノノミニテモ千九百十六年六月頃ニハ少クモ
七千五百輛ヲ算セシト云フ

第三 貨物自動車ノ効力

貨物自動車ノ轆馬縱列ニ比シ有利ナルコトハ既ニ本章第一節ニ述ヘタルカ如シ
現歐洲戰役殊ニ西方戰場ニ於テハ到ル處良好ナル道路ヲ通スルニ由リ其ノ應用
範圍頗ル大ニシテ單ニ補給勤務ノミナラス乘用自動車ト併用シ騎兵ノ支援トシ
テ乘用自動車隊ヲ編成シ若クハ軍隊ノ移動ニ利用スル等戰場到ル所ニ使用セラ
レタルノ狀況ハ左ノ如クナリシト云フ

獨國 獨軍カ千九百十五年六月以降露軍ヲ大破シタルハ其ノ將帥ノ智識、兵卒
ノ勇猛並ニ鐵道ノ發達之カ原因ヲ爲セシモ其ノ主ナル原因ハ多數ノ自動車

カ隨所ニ軍隊兵器及糧秣ヲ輸送シタルニ依ルモノニシテ殊ニワルソー附近ノ戰鬪ニ於テハ約二萬輛ノ自動車(一臺三十人ヲ積載ス)ヲ使用シ瞬間ニ大兵ヲ移動シ露軍ヲシテ之ニ應スルノ遑ナカラシメシト云フ

佛國 軍隊ノ輸送ニモ盛ニ自動車ヲ使用シ千九百十四年九月、十一月ノ三箇月間ニ於テ尠ナクモ二十五萬ノ人員ヲ十二乃至七十哩ノ距離ニ輸送セシト云フ

自動車効力ノ偉大ナルハ漢望ニ堪ヘス(限)

第四節 將來ニ於ケル貨物自動車ノ研究

將來ノ戰爭ニ於テハ軍ノ兵力從來ニ比シ増大スルヲ以テ一道路上ニ配當スル軍隊モ亦増加スルヲ免レス從テ輓馬縱列ノ輸送ニ依リテ給養ヲ實行スルコト困難ナルノミナラス機械的交通具ノ發達ニ伴ヒ漸次民間ニ於ケル輓獸ノ數ヲ減少シ戰時必要數ヲ徵集シ能ハサルニ至ルコトハ世ノ趨勢ノ免カレサル所ナルヲ以テ現歐洲戰役ニ於テ各國カ盛ニ利用シタル如ク其ノ運搬効程著大ニシテ作戰上ヨリスルモ給養上ヨリスルモ最モ有利ナル貨物自動車ヲ應用シテ糧秣補給ノ困難ヲ補ハサルヘカラス

貨物自動車ノ應用

自動車使用地區

東洋ニ於ケル地形ハ貨物自動車ノ効力ヲ充分ニ發揚セシムルコト困難ナル所アリト雖モ大軍ノ作戰ニ在テハ後方連絡ヲ容易ナラシムル爲メ勉メテ良好ナル道路ヲ有スル地方ヲ選定シ且絶エス道路ヲ改修スルヲ常トスルノミナラス自動車ノ構造モ亦工藝技術ノ日進月歩ニ伴ヒ其ノ運轉機能ヲ益々發達セシムルノ趨勢ニアルヲ以テ之カ構造ヲ各種ノ地形ニ適應セシムル如ク研究シ假令戰鬪部隊ノ直後ニ利用スルコト能ハサルトスルモ兵站地區内ニ於テハ糧秣輸送ノ重要ナル機關トシテ之ヲ應用スルヲ必要トス

獨國 現歐洲戰役ニ於テハ波蘭ガリシヤ及巴爾幹地方ハ鐵道ノ交通充分ナラス道路モ亦不良ナリシヲ以テ全力ヲ盡シテ道路ヲ修繕シ之ト同時ニ自動車ヲ改良シテ凹凸及道路ノ泥濘殊ニ嚴寒積雪ノ候ト雖モ自動車ノ輸送ヲ續行シ得ル如ク爲シタリト云フ

佛國 アルサス地方ハ山岳重疊セル起伏地ナルヲ以テ佛軍ノ之ヲ占領スルヤ多大ノ勞力ヲ費シテ道路ヲ改修シ自動車ヲ通過セシムルコトニ努力シ多大ノ利益ヲ得タリト云フ

伊國 山地戰ニ於テ盛ニ自動車ヲ使用シ或ハ障礙乘越ノ裝置ヲ施シ或ハ泥濘

ノ惡路ヲ通過シ得ル如ク構造ヲ改良スル等ノ手段ヲ施セシト云フ

露國 千九百十五年一月自動車勤務ノ爲メ將校及下士卒ヲ養成シ且陸軍ノ要
求ニ適應スヘキ各種ノ自動車ヲ精密ニ研究スル目的ヲ以テ自動車學校ヲ設
ク其ノ組織ハ學校本部、自動車職工學校、教練中隊、技術中隊、試驗所等ヨリ成ル
モノニシテ學生及生徒ノ狀況ハ左ノ如シト云フ

將校學生 毎年六十名ヲ工兵、鐵道隊並ニ軍用自動車ヲ使用スル軍隊及官

衙ヨリ派遣スルモノニシテ修學期二箇年トス

兵卒生徒 其ノ所屬部隊ニ在リテ自動車豫備科ヲ好成績ニテ修了セル兵

卒二百名ヨリ成ルモノニシテ修學期一箇年トス

前項ノ研究ト共ニ平時如何ニシテ戰時ニ於ケル必要數ヲ準備シ之ヲ維持スルヤ
ヲ深ク講究スルコトハ最モ必要トス何トナレハ皇國ノ如キ商工業ノ發達未ダ充
分ナラス且道路狹隘、橋梁脆弱ニシテ貨物自動車ノ疾走ニ適セサル地方多キ國ニ
在リテハ歐洲諸國ノ如キ獎勵法ヲ以テ民間ニ多數ノ貨物自動車ヲ準備スルコト
困難ナレハナリ

平時ヨリノ
準備

困難ナリトテ中止スヘカラス須ラケ國內官民各機關ノ協同一致ヲ以テ成ルヘク速ニ多クノ自動車ヲ準備スルヲ要ス(田中)

大正七年三月二十三日印刷
大正七年三月二十六日發行

複製
不許

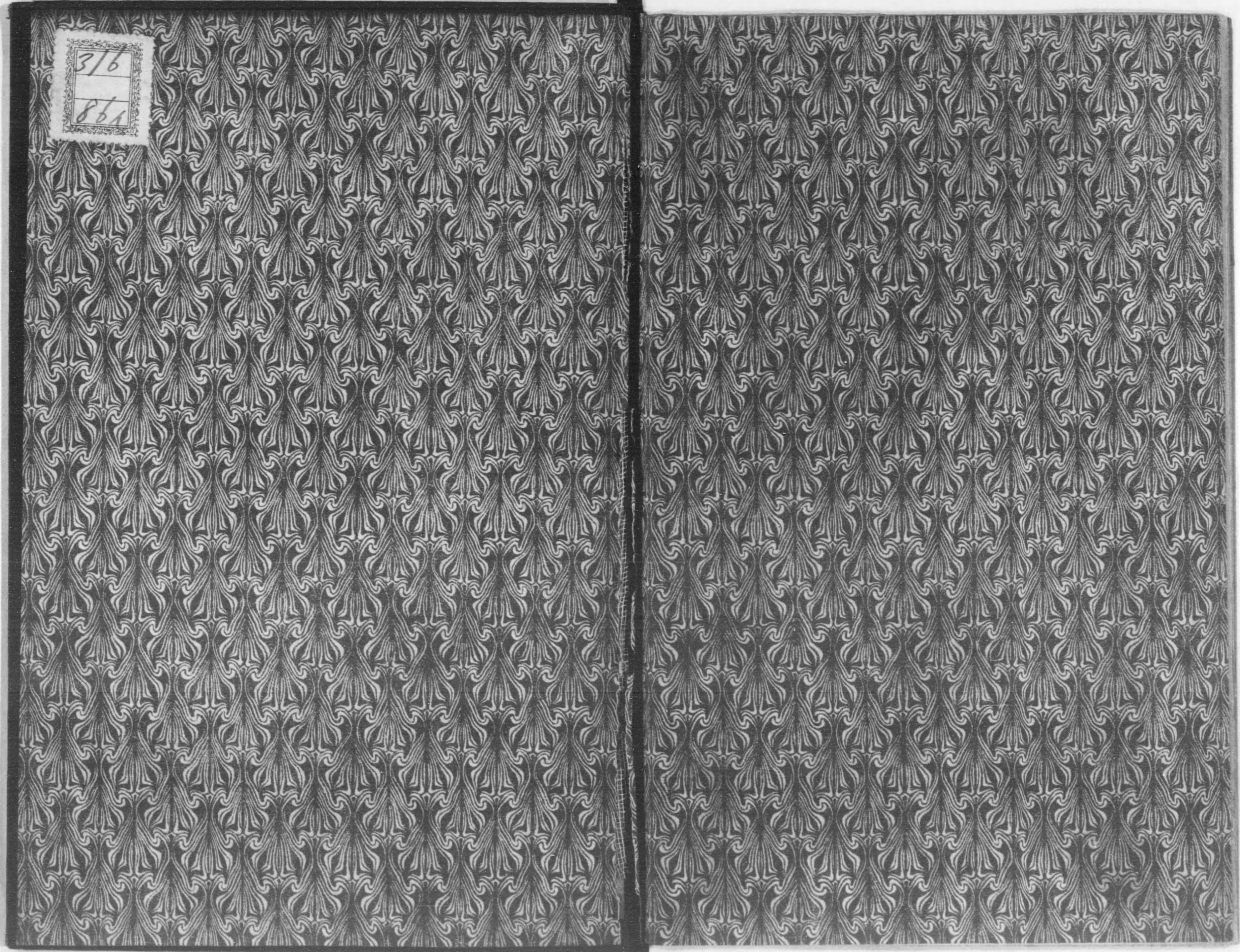
著述者
東京府豊多摩郡西大久保二百二十九番地
木村重行

發行者
東京市牛込區河田町十四番地(陸軍經理學校内
主計團記事發行部)
關根惠教

印刷者
東京市麴町區有樂町三丁目一番地
八木角太郎

印刷所
東京市芝區西久保櫻川町二十番地
濱田活版所

376
861



終